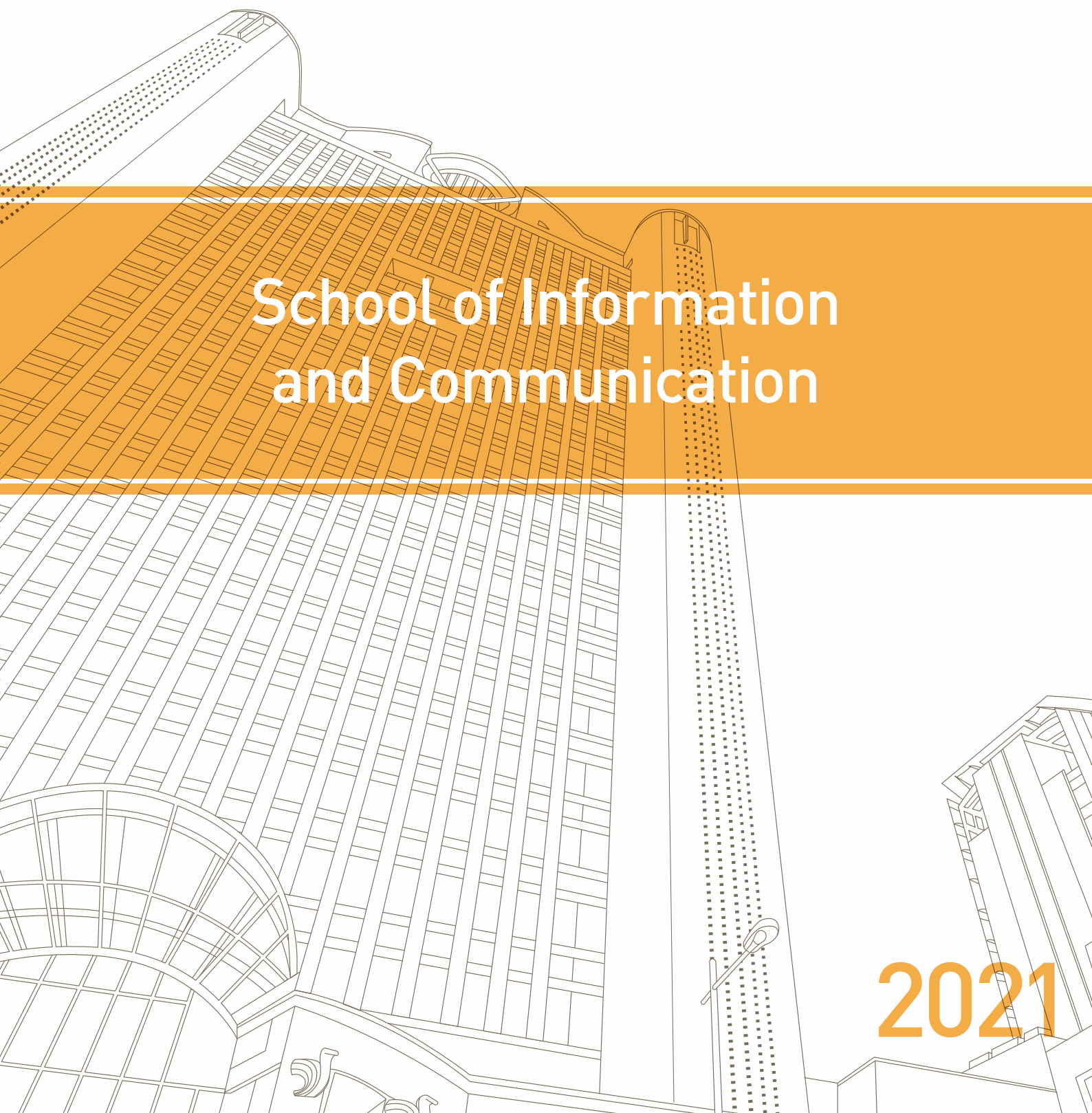


情報コミュニケーション学部



School of Information
and Communication

2021

“Diversity” makes the world go round.



情報コミュニケーション学部長
須田 努 (すだつとむ)

1959年生まれ。明治大学文学部史学地理学科卒業。早稲田大学大学院文学研究科日本史学専攻博士課程修了。2002年早稲田大学博士(文学)。2008年より明治大学情報コミュニケーション学部准教授、のち教授。著書に『「悪党」の一九世紀』『暴力の地平を超えて』『イコンの崩壊まで』『幕末の世直し』『逸脱する百姓』『比較史的にみた近世日本』など多数。

学部長メッセージ

「ガクの情コミ」で自分の将来を見つける4年間に

研究対象が複数の学問領域にまたがる「学際的な学問・研究」が魅力の情報コミュニケーション学部では、「社会の現在をとらえる」、「多様で学域横断的なアプローチ」、「創造と表現」という3つの柱を理念としています。カリキュラムは、学生一人ひとりがそれぞれの興味・関心にあわせて講義・演習を選択できることを重視し、必須科目を少数に設定しています。また、自ら問題を発見・分析し、解決に導く問題解決能力を養うことを目標に、1年次から4年次まで段階的に履修するゼミナール科目にも力を入れています。1年次の基礎ゼミナールでは、新書レベルから入門書を正しく読み、内容を分析して、自分の意見をまとめられることが目標です。2年次には1年次で取り組んだことを深めていき、3・4年次には選択した分野を論文にまとめます。進級するごとに違う専門のゼミに進んだり、複数のゼミに所属したりすることも可能です。高校までの“与えられる学習”ではなく、自由度の高いカリキュラムをいかした「学際的な学問・研究」から、自分自身の興味・関心がどこにあるのかを探し、選んだ学問を集中して探究することができます。

「学際的な学問・研究」に加えて、今後大きく掲げていきたいのが「ガクの情コミ」です。ガクは「楽」しいの「ガク」

と、「学」問の「ガク」を指しており、本学部での学問研究が楽しいものであることを表現しています。高校までの勉強では答えがひとつしかないことが大半ですが、大学の学問・研究はそうではありません。たとえば日本史です。高校だと決まった答えを暗記する科目ですが、本来歴史というものは、立場によって考え方がいくらかでも変わる答えのない学問です。答えがひとつではない面白さ、多様性を知ることが「ガクの情コミ」の「学・楽」につながってきます。

本学部は、実に多様な学問分野を扱っています。異なる分野を専門とする私たち教員に共通するのは、それぞれの学問を通して、現代社会とどう向き合うかを意識した研究テーマをもっているということです。複雑に絡み合う社会の問題を発見・分析し、解決に導く力で、より良い未来に貢献できる人材を育成したいと考えています。また教員たちは各分野で世界とネットワークをもっているため、海外の研究者を招へいして講義をしたり、留学のサポートをしたりすることも可能です。自由楽しく学問を学べる環境で、幅広い価値観にふれ、それぞれの学びの中で自分の将来進むべき道を見つけ出してください。

CONTENTS

学部長メッセージ・・・・・・・・・・	01
情報コミュニケーション学部概要・・・・・・・・・・	03
情報コミュニケーション学部の特色	
～個を育てる情報コミュニケーション学部の学び～	
①自分自身で「問い」を立て、多角的な視点からアプローチする楽しさを学ぶ・・・・・・・・・・	05

②さまざまな手法を駆使した「表現」を実践し、コミュニケーションの輪を広げる・・・・・・・・・・	07
③教員と学生による座談会	
『多種多様な分野が相互につながりあうことで、主体的に深めたい「ガクの情コミ」』・・・・・・・・	09
カリキュラムの特長・・・・・・・・・・	11
自らかリキュラムをカスタマイズし、問題を発見・解決する4年間	

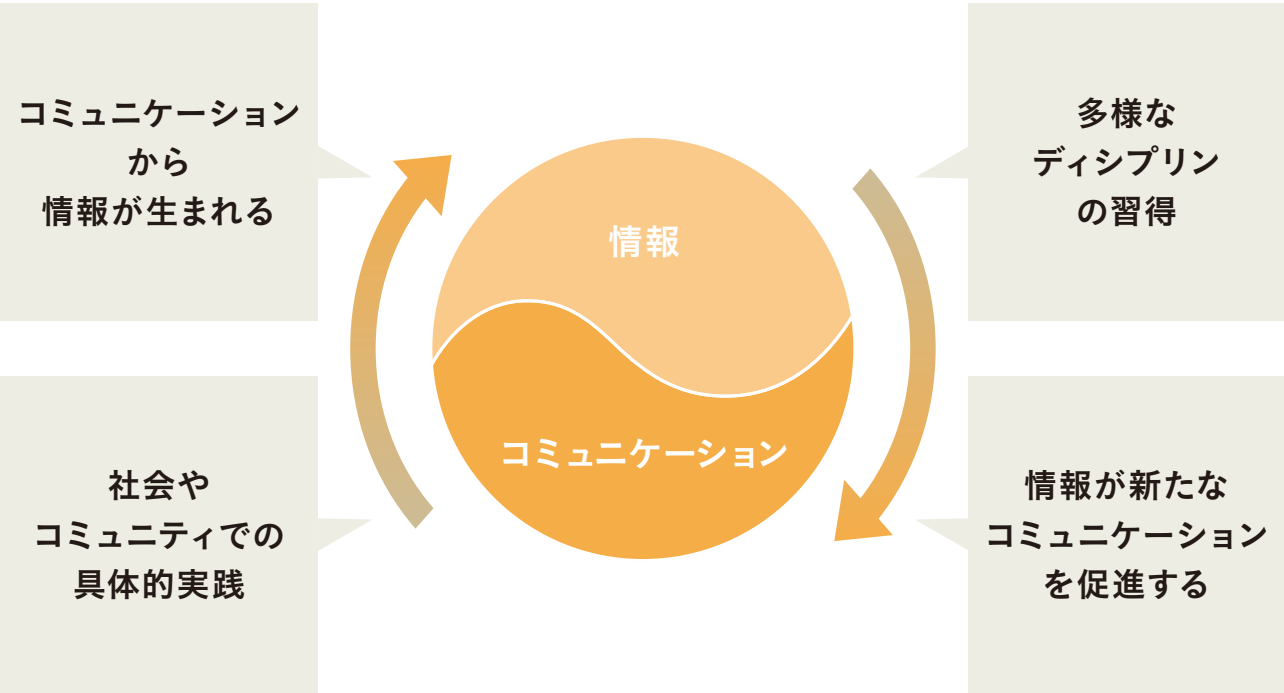
■1・2年次：多様な研究の最先端を知り、問題を発見する・・	13
■3・4年次：問題を分析し、解決する・・・・・・・・・・	15
ゼミナール教育・・・・・・・・・・	17
基礎教育・専門科目・・・・・・・・・・	19
国際交流・・・・・・・・・・	21
教員紹介・・・・・・・・・・	23
就職実績 資格取得・・・・・・・・・・	25

情報コミュニケーション学部生の1日・・・・・・・・・・	26
卒業生からのメッセージ・・・・・・・・・・	27
ジェンダーセンターの活動・・・・・・・・・・	29
入試情報・・・・・・・・・・	29

※登場する人物の在籍年次や役職等は、取材時点のものです。

動き出せ、イマ ― 貫く多様性 広がる可能性 ―

情報コミュニケーション学部を表象するこのキャッチコピーは、4年生小野魁星さんが創作したもので、「情コミは、学問はもちろん・性・言語・宗教等すべてにおいて開かれた環境」であるという思いがコンセプトになっています。



▶ 情報コミュニケーション学部の3つの柱

1 社会の〈現在〉を捉える

旧来のケータイを抑えた iPhone や Android に代表されるスマホの大ヒット。Twitter や Facebook などの SNS (ソーシャルネットワークサービス) の爆発的普及と TV 離れ現象。そして 2016 年から本格稼働し始めたマイナンバー。現代社会はネットワーク技術に支えられながら高度情報社会の段階に突入しました。一方、こうした社会の情報化がネット上でのさまざまな犯罪や情報セキュリティの問題を引き起こしたり、政治や経済のあり方に大きな変化をおよぼしてもいます。本学部はこうした情報社会の生きた現実と向き合い、問題を探るカリキュラムを用意しています。

2 多様で学域横断的なアプローチ

高度情報社会の問題は、複雑で多岐にわたります。したがって、さまざまな分野の知が協働して問題に取り組まなければなりません。情報コミュニケーション学部では、社会科学を軸にしながら、人文科学や自然科学を取り込んだ学域横断的 (interdisciplinary) な視点から、またみなさんの主体的な取り組みを最大限尊重するようにカリキュラムが設計されています。

3 創造と表現 (Creation & Expression)

情報コミュニケーション学部では、既存の伝統的な知の蓄積を尊重することと並んで、みなさんが自ら何かを創造し、そして、何らかのメディアを使ってそれを表現することを支援します。論文や文芸などの言語表現、ビデオやアニメなどの映像表現、ダンスやパフォーマンスなどの身体表現、ミュージッククリップやライブといった音楽表現など表現の手段は問いません。カリキュラムでもこうした実践をワークショップのかたちで拡充中です。

「ガクの情コミ」

「ガク」とは「学」と「楽」を意味しています。学問・研究という知的営為は楽しいものなのです。そして、情コミの「ガク」は多様性を表現しています。わたしたち (教員と学生) は、この「ガク」を通じて、現代社会で発生する様々な問題、たとえば、非常時の危機管理、ネット上での犯罪、多文化共生が唱えられる一方で広がる排他主義などに挑んでいきます。

「情報コミュニケーション」って何？

「情報」は、マスメディアや書籍、スマートフォンやパソコンなどを介してアクセスし取得する静的なもの、他方「コミュニケーション」は、人と人との言葉やジェスチャーを通した動的な交流です。情報がコミュニケーションを促し、そしてコミュニケーションが新たな情報を生み出すわけです。「情報」と「コミュニケーション」は切り離すことができない、一体化したプロセスだと私たちは考えています。

明治大学
情報コミュニケーション学部
の強み

高度情報社会で
活躍する
創造的な人材を育成

Point 1 「学域横断」を実現する
多彩な教養・研究科目群

社会科学を中心に人文科学、自然科学の諸分野におよぶ多彩な科目が履修可能です。ワークショップ形式の授業やクリエイティブ科目も充実しています。

▶ 詳細は P.11 ~ 12

Point 2 問題・課題によってカスタマイズ
できる柔軟なカリキュラム

多岐にわたる科目群から、みなさんが立てた問題や課題に沿って科目を選択・履修できる自由度の高いカリキュラム制度を採用しています。

▶ 詳細は P.13 ~ 16

Point 3 ミッション遂行型留学

単なる語学研修を越えたミッション (課題) 遂行型の留学プログラムを用意しています。

▶ 詳細は P.21 ~ 22



※iPhoneは、Apple Inc.の商標です。 ※Android および Android ロゴは、Google LLCの商標または登録商標です。
※Twitter および Twitter ロゴは、アメリカ合衆国また他国々におけるTwitter, Inc.の登録商標です。
※Facebook および Facebook ロゴは、Facebook, Inc.の商標または登録商標です。

自分自身で「問い」を立て、 多角的な視点から アプローチする楽しさを学ぶ

思考力が鍛えられる “情コミ”のゼミ授業

大学での勉強は講義を聞くだけではありません。自ら課題を見つけ、どのような過程や方法で解決するかという思考力が問われます。本学部では、1年次からゼミナール形式の授業を設け、その力を養います。

自分で発見した現代社会の課題を あらゆる方向から見つめ直す

自ら「問い」を発見し、多角的な視点からアプローチを試みつつ、積み重ねた知識を再構成して結論を導き出すというノウハウは、大学で時間をかけるからこそ培うことができるものです。情報コミュニケーション学部では、基礎を養う時期である1年次からゼミナール形式の授業が用意されており、4年間で基礎・問題発見・問題分析・問題解決と段階的に学ぶことができるようになっています。▶P.17

南後由和先生のゼミナールは“都市とメディア”をテーマに行われ、主に東京がはらむ問題と可能性を、社会学を軸とする領域横断的な方法論で発見し、分析していきます。研究テーマは、建築、デザイン、観光、地図、ストリート・カルチャーなど多岐にわたります。「研究の計画、文献の読み込み、データの収集・分析、フィールドワーク、インタビュー、プレゼンテーション、ディスカッション、論

文の執筆をひと通り経験することで、将来どのような分野に進んでも、個で計画、調査、分析、発表できる基礎体力を養うとともに、創発的な協働のあり方を体得します」(南後先生)。

この日は学生たちが、個人研究の中間報告のプレゼンテーションを行いました。発表後は全員でディスカッションが行われ、鋭い指摘や質問が出てきます。活発な意見が飛び交い、議論は遅い時間まで続くことも。研究を進める過程では、フィールドワークやインタビューに加え、社会学者や建築家、グラフィックデザイナーといった第一線で活躍する専門家から、調査の方向性についてアドバイスを受ける機会もあります。ブラッシュアップを重ねた研究の成果は、卒業論文集としてまとめます。学生たちが自主的にグループで行うプロジェクトもあります。『都市論ブックガイド2』という本を、学生たち自ら執筆、編集し、出版しました。通販や書店で販売し、大学の図書館で展示もしました。

何となく通り過ぎていた都市の風景が、これまでとは違ったものとして見えるようになる、そんな学びを実感できる授業です。

MESSAGE

南後 由和 准教授

高校までは、与えられた問題にいかにか正解するかを訓練してきたと思います。大学では、自ら問いを立て、正解のない問いに多角的な視点からアプローチする楽しさを味わってください。現代社会は、ひとつの専門分野だけでは解決できない複雑な問題が山積しています。本学部の学際性豊かな授業を通して、既存の枠組みにとらわれずに異分野へ架橋していく貪欲さを身につけ、現代社会にあふれかえる膨大な情報を独自のモノサシで編集する力を養いましょう。

PROFILE

2008年東京大学大学院学際情報学府博士課程単位取得退学。東京大学大学院情報学環助教、同特任講師、明治大学情報コミュニケーション学部専任講師を経て、2017年より同准教授。研究テーマは「都市とメディア、建築と社会に関する理論的・実践的研究」。

STUDENT VOICE

3年
木村 尊治
東京都立
井草高等学校卒業



“批判的な視点”が思考を深め、 問題の本質に気づかせてくれると実感しました

私のゼミの主なテーマは途上国の援助・発展。国の開発や発展に向けた適切な援助とは何か、私たちにできることを考えています。学びを進める中で大切にしているのは批判的な視点です。ニュースや新聞などのマスメディアから得られる情報に流されるのではなく、「本当に正しいのか」一度立ち止まって自分なりの解釈を加える。そうすることで問題の本質に

気づくことができると実感しました。また批判的な視点をもつためには、物事を多角的に見る力も必要です。ゼミではさまざまな意見を聞けるので、一つの考えに捉われず広く物事を見るように意識しています。身につけた多角的な視点と批判的な視点の両方をいかして、大きく変化する社会において活躍できる人材を目指したいです。



ディスカッションではさまざまな視点からの意見が出され、新たな課題が見つかることもあります。昼に始まった授業は夕方までおよぶこともあるほど、学生たちは熱く話し合います。



資料を読むだけでなく、実際に現地へ足を運びます。現状を知ることによって新たな企画を考えることもできます。

PICK UP

注目授業

世界各国から研究者を招聘して行われる オムニバス講義「世界のキャンパスから」

この授業では、世界各地の様々な大学で最先端の研究を行っている新進気鋭の研究者を招き、本学部の教員がコーディネーターとなって分かりやすく研究内容を紹介します。授業テーマは、メディア・音楽・ジェンダー・スポーツ・政治・ファッション等、分野を越えて多岐にわたります。この

授業を受けることで、みなさんは世界のさまざまなキャンパスで、いったい何が問題として研究され、どのような授業が行われているのかを、日本にいながらにして知ることができます。興味をもった分野を本学部で極めるのもよいし、授業で出会った研究者の下へ留学することも良いでしょう。



さまざまな手法を駆使した「表現」を実践し、コミュニケーションの輪を広げる

Art-Live-Rally

価値観の多様化する現代において、人と人はどのように共生することができるのでしょうか。波照間ゼミは単なる情報のやりとりとは異なる「アート（芸術）」を使ったコミュニケーションのあり方を探り、実践する場です。

「アートコミュニケーション」を通じて多様な人々とつながる

スマートフォンやSNSの普及をはじめ情報化が人々の生活をより豊かなものにする一方で、人と人とが直接対峙する機会、特に異なる世代や価値観をもった人同士のコミュニケーションは希薄になりつつあるのではないのでしょうか。

波照間ゼミでは、教育、医療、町づくり、国際交流など、さまざまな場面で人と人との出会いを演出しコミュニケーションのきっかけを提供する「アート（芸術）」に着目。現代社会におけるその役割や課題について日々、研究や議論を重ねています。現地調査や現場に携わる人の体験を聞くことはもちろん、ゼミ生自ら企画運営、作品発表まで行うアートイベントも開催。中でも2019年度で11回目を迎えた「Art-Live-Rally」は、「生き生きとした“Live”、表現・創造活動“Art”を通して、人と人をつなげよう“Rally”」を目標に掲げ、地域交流と国際交流のふたつのプロジェクトを継続して実施しています。

2019年度の地域交流プロジェクトでは、「地域資源を学び、地域に暮らす人々と交流しよう」をミッションとして、駿河台キャンパス近隣の

すずらん通り商店街が主催する神田すずらんまつりのステージ企画に参加し、大学近隣の子どもたちと地域の方々をつなぐ場を創りました。

また、学部間協定校の成均館大学芸術学部（韓国・ソウル）との共働による国際交流プロジェクトArt-Live-Rally 2019 Korea Japanでは、“Open Your Dream”をメインテーマに、パフォーマンス発表を行いました。成均館大学は、韓国舞踊を披露しました。それを受けて、明治大学情報コミュニケーション学部からは、石川ゼミが三味線に合わせてHip Hop ダンスを上演し、音楽論の宮川ゼミが、作品演奏とポピュラーミュージックに関する研究発表を行い、超域文化論の高馬ゼミが日韓のファッション研究をプレゼンテーションして会場を沸かせました。さらに波照間ゼミからは、“風和舞遊（ふうわぶゆう）”と題して、日本の伝統文化と、現在進行形の新しい文化を織り交ぜ、視覚、聴覚を刺激する総合パフォーマンス作品（映像×音楽×ダンス）を上演しました。

学内から地域へ、そして国境を越えた交流へ…。こうした体験を通じて、ゼミ生たちはさまざまな形のアート＝表現の実践が、人々の間に横たわる違い、壁を乗り越え、コミュニケーションの輪を広げていく可能性を実感するのです。



MESSAGE

波照間 永子 准教授

情報コミュニケーション学部では、学部の3つの柱として「社会の〈現在〉を捉える」・「多様で学域横断的なアプローチ」・「創造と表現（Creation & Expression）」を定めています。授業で学ぶ多様なトピックやアプローチを、自らの課題に照らして吟味し、その解決法を模索して生み出す「主体性」が求められます。「学び」を「創造」につなげ、あなたの「個」を拓きましょう。

PROFILE

専門は舞踊学・身体表現論。博士（学術）。研究テーマは「アジア太平洋地域におけるパフォーマンス・アーツの学際的研究とネットワークの構築」。お茶の水女子大学芸術・表現行動学科舞踊教育学コースおよび沖縄県立芸術大学大学院 非常勤講師（民族舞踊学）。著書に『近代日本の身体表象』『沖縄県史 各論編 女性史』（共著）などがある。研究プロジェクトはこちら <http://riappa-meiji.jp/>



神田すずらんまつりでのフラッグ（旗）を使ったパフォーマンス



3・4年生合同によるヒップホップダンス



成均館大学（韓国・ソウル）の交換留学生とのコラボレーションによる日本舞踊

STUDENT VOICE

4年
前川 莉子
東京都立
三田高等学校卒業



Art-Live-Rallyで培ったOから創造する力と、個性を高め合う力を次の学びにつなげたい

Art-Live-Rallyで独自のよさこい踊りの創作に挑戦。私は振り付けを担当しました。どうしたら観客に楽しんでもらえるか、方向性に悩んでいた時に幼い頃から続けているクラシックバレエの技術を取り入れることを発案。その結果、日本らしさと新しさを兼ね備えたよさこい踊りに仕上げることができました。

また、ゼミでは韓国の交換留学生と一緒に舞台を創る機会もあり、創作活動中には国による考え方の違いを鮮明に感じることも。自分の考えを当り前と思わず、違いを受け止め、個性を高め合う大切さを学びました。培ったOから物事を協力して創り上げる力を次の学びにつなげたいです。

PICK UP

注目授業

フジテレビ×情報コミュニケーション学部のメディアリテラシー講座「映像表現論」

テレビ番組制作を通じてメディアリテラシーを実践的に身につける「映像表現論」では、撮影方法や取材の段取りを学んだあと、学生たち自ら取材の交渉やインタビュー、撮影を行いVTRを制作します。フジテレビの湾岸スタジオではプロのスタッフの指導のもと、撮影機材などを使って番組を収録。学生たちはキャスターとして出演するだけでなく、番組やスタジオの進行を指示するディレクター、カメラ操作など役割分担し、番組を完成させていきます。

完成した番組の映像は右のQRコードで閲覧可能です。
※検索サイトへ「情コミ VTR」と入力しても検索できます。



番組を支える人々の努力と情報を受け取る側がもつべき姿勢に気づくことができました

3年
間島 侑里
山梨県立
甲府南高等学校卒業



映像表現論では学生が主体となり番組制作を行いました。一から制作に携わり、番組が人々の目に届くまでには、取材先へのアポイントメント取りや番組の台本の基となるオフラインシート作りなど、地道な作業が積み重ねられていることを実感。多くの人の努力により番組が創り上げられていることに深く感動しました。また制作を進める

中で、メディアリテラシーの重要性を再確認。取材や調査を重ねたうえで報道される内容であっても、その情報を鵜呑みにせず、自分自身で真実を確認することが大切だと感じました。制作側の目線を体験して学んだ物事の新しい見方、常に好奇心をもち新たなことに挑戦する姿勢は社会に出てからもきっと役に立つと思います。

教員と学生による座談会

多種多様な分野が相互につながりあうことで、主体的に深めたくなる「ガクの情コミ」

さまざまな分野の学びが集う情報コミュニケーション学部。
学生たちの自主性を尊重する、自由度の高いカリキュラムも大きな特長となっています。
その魅力や環境、学びについて、学部長を始めとする教員と学生たちが語り合いました。

分野を越えてつながる 自由度の高い学び

——社会科学（法学や経済学、政治学、社会学など）を「情報」や「コミュニケーション」といったキーワードを軸に多様な分野と交わりながら展開する、情報コミュニケーション学部。本学部ならではの魅力を、どのように感じていますか？

島田 私は本学に来るまでの23年間、国際協力機構JICAで医療に携わってきました。医療の現場では、さまざまな分野の専門家たちが協力しながら、保健の問題や貧困と立ち向かっています。多種多様な学びが揃う本学部には、その環境に似た雰囲気漂っていて、とても心地よいですね。

後藤 ここで学ぶ学生のみなさんが持っている、自由闊達な空気感にも本学部らしさが表れているように思います。好き勝手にする自由さとは違う、厳しく管理されない分、自ら考えて行動する自主性が育まれている。その自由さが、物事をさまざまな側面から捉える発想力にもつながっているように思います。

山内 イノベーションの分野においても、その起爆剤となるのは、自由な発想、そして幅広い知識。多分野の学びが揃う本学部は、その条件を満たしていると言えます。私の想像以上にさまざまなことに興味を示す学生も多く、教員も自身の成長につながる高いモチベーションで教育に臨める環境だと思います。

坂本 私は言語学を担当していますが、専門分野である文法以外の話題にも興味を示してくれる学生の多さに感心しています。それは、文法以外の領域へ学びを広げるきっかけにもなりました。学びを他領域につなげていく面白さを感じられる、そんな魅力を持つ学部だと思います。

大黒 さまざまな分野の学びが、複雑に多様に絡み合っている、さながらジャングルのような学部。日々講義を繰り広げる中で新たな研究対象が現われ、教員もスキルアップを求められる。教育者にとって刺激的な環境であり、それがこの学部ならではの面白さだと思いますね。

須田 10年以上、ずっと楽しいと感じながら過ごしてきました。豊かな感性を持つ学生のみなさんや多様な



分野の研究からの刺激で、私自身の研究も面白い変化が続いています。教員が成長し続けているからこそ、教育にも変化が生まれ、それが学生のメリットにもなっていく。日々アップデートされていくことも、本学部の大きな魅力になっていると思います。

Desty 本気で学びたいことを探ることが入学の目的でしたので、法律やジェンダー、経済、言語など、さまざまな学びに触れられる点が私にとって一番の魅力でした。学ぶ意欲があればどんな科目でも挑戦できる自由さを実感しています。

三輪 大学では全員で同じことを学ぶのではなく、人と違うことに取り組みたいと考えていました。数々の選択肢がある本学部なら、きっとやりたいことが見つかると思いました。カリキュラムを自由に決められる仕組みに満足しています。

田村 高校のときに参加した説明会で、本学の自由度の高さを知り入学を決めたのですが、やはりそこが一番の魅力だと思います。自分が学びたいことに集中できる環境がうれしいですね。

宮崎 さまざまな分野に挑戦できることに、大きなメリットを感じています。自分に合うかどうか、取り組みながら考えることもできます。最後まで続けるかどうかは、自分次第。自由さがある一方で、自らの選択への責任感も養われました。

一人ひとりが自分だけの 学びを見つける

——好奇心のおもむくままに、自由な発想で多様な学びを展開できる環境。一人ひとりに、自分だけのキャンパスライフがある。どのような学びが展開され、その先に何が広がっていたのでしょうか。

島田 私の専門は国際経済学なのですが、専門的な理論を応用して、社会の分析ができるように教えています。アフリカの経済発展について外務省へ提言するという取り組みを行いました。大切なのは学生自らが考えて行動すること。さまざまな学びを経験して、スペシャリティのある人材を目指してほしいと思います。

後藤 机上で済ませず、自ら体験することで学びが深まる。例えばゲーム理論を学ぶ際も、頭と体を使った実験に取り組んでもらっています。興味を持って挑戦する中で、ブレイクスルーが生まれる。ぜひ、自分の武器を磨いてほしいですね。

山内 製品開発・イノベーションは、理論として身につけるのではなく、自ら取り組んで、その大変さを実感してほしい。それが深い学びになるからです。AIと共存していく時代を生き抜く力を、本



気になって身につけたい人を待っています。

坂本 言語学という枠にとらわれず、自然科学や社会科学、脳科学まで取り入れることで、本学部らしい学びを実践できていると感じています。どんなことにも苦手意識を持たず、少しでも興味があつたらトライしてほしいと思います。

大黒 学生の皆さんは、どのようなテーマに取り組むにしても、「人と違う」ということにこだわってください。学びと経験のジャングルで、ヒトにしかないクリエイティビティを磨き上げてほしいですね。

須田 「ガクの情コミ」は楽しい学問を提供しています。学生たちからは、私たち教員の想像を越えた多種多様な意見や要望がでてきます。私たちはその声に学び、さらにカリキュラムを進化させていく。ぜひ、学ぶことを楽しんでもらいたいと考えています。

Desty 入学した頃は、教育や貧困問題に興味がありましたが、やがて母国の観光産業に興味を持ったり、将来は国際的に活動できる職業に就きたいとも考えるようになりました。学びたいことを見つけ、深められる環境に感謝しています。

三輪 人と違う学びのテーマを求め、今は人がなぜ非合理的な行動をとってしまうのか、そのメカニズムの解明に取り組んでいます。何を学びたいか、どうなりたいか、を考えることができました。

田村 心理学に興味があった私ですが、現在取り組んでいるのは商品開発。人々の心の動きから、購買行動、マーケティング、モノを売るプロセスへと関心が移った結果だと思っています。自分で考え、自分でレールを引く。そんな学びを体験したい人に、おすすめしたい学部です。

宮崎 私が見つけた学びのテーマは、日常生活に溢れている言葉。学問は、教科書の中ではなく、身近なところにもある。受験生のみなさん。やりたいことを見つけるよろこびに出会ってください。

動きだせ、イマ。一貫く多様性 広がる可能性 — 《オリジナルPV公開中》

一人ひとりが興味を持った分野を深められ、その先で出会う好奇心、領域を越えた学びへの意欲に応える環境がある。そこには、学生本人が主体的に動き、これからの時代に、自分で人生を切り開く力を身につけてほしいというわたしたちの願いが込められています。

本学部では、その魅力を、約90秒のプロモーションムービーとして公開。キャッチコピー「動きだせ、イマ。」は、学生たちからの60本を超える応募から決定しました。



須田 努 学部長



研究テーマ：人間社会における暴力の問題・日本近世民衆の朝鮮観・国民国家の形成と在来文化の変容など
担当科目：社会文化史

大黒 岳彦 教授



研究テーマ：「メディア」と「情報」の思想・哲学的研究
担当科目：哲学、メディア論

島田 剛 准教授



研究テーマ：産業政策、インバクト評価、災害復興をソーシャル・キャピタル（社会関係資本）の視点から研究
担当科目：国際経済論

NSENGIYUMVA DESTY



4年
島田ゼミナール所属
愛知県私立中央大学附属中央高等学校卒業

山内 勇 准教授



研究テーマ：日本企業のイノベーション活動、知的財産制度に関する実証研究
担当科目：情報社会と経済、情報産業論

田村 優奈



3年
山内ゼミナール所属
神奈川県横浜市立金沢高等学校卒業

後藤 晶 専任講師



研究テーマ：行動経済学・実験経済学協力行動・利他的行動に関する研究
担当科目：情報と経済行動、不確実性下の人間行動

三輪 大地



3年
後藤ゼミナール所属
愛知県立旭丘高等学校卒業

坂本 祐太 専任講師



研究テーマ：言語理論に基づく「ことば」の研究
担当科目：言語学

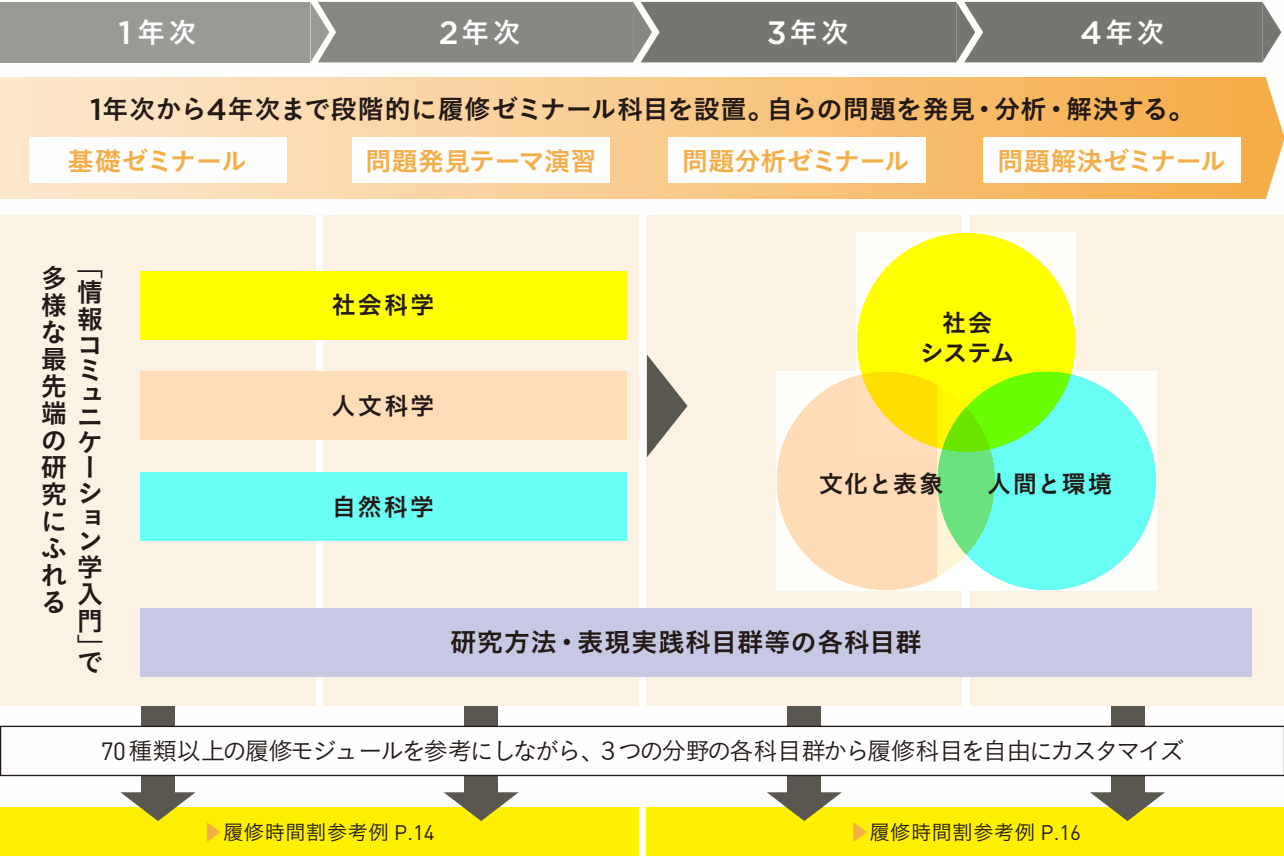
宮崎 怜子



3年
坂本ゼミナール所属
東京都私立桐朋女子高等学校卒業

自らカリキュラムをカスタマイズし、 問題を発見・解決する4年間

高校時代と違い、大学での学問・研究は主体的なものです。
ひとから強制されたり上から押し付けられたりするような学習は大学の本来の学びとは無縁のものです。
本学部はみなさんの主体性を最大限に尊重し、また伸ばすことを目的としたカリキュラムを組んでいます。



3つのポイント

特長1

学際的
学問分野を段階的に

1年次に専任教員がオムニバス形式で授業を行い、多様な研究分野を紹介する「情報コミュニケーション学入門」を、3年次にはさまざまなテーマに基づき専門家を招へいし、オムニバス形式で授業を行う「情報コミュニケーション学」を設置することで、情報コミュニケーション学という学際的学問分野を段階的に学習できるようにしています。

特長2

履修科目のカスタマイズ

本学部のカリキュラムは『専門科目群』『研究方法・表現実践科目群』のふたつが柱となり、それぞれを学部の特長的な科目によって構成しています。入学後、学問・研究の基礎を身につけながら、70種類以上ある「履修モジュール」を参考にして自身の興味・関心のあるテーマに沿った履修科目を自由にカスタマイズしていきます。

特長3

全学年に
ゼミナール科目を設置

1年次から4年次までのすべての学年にゼミナール科目を設置し、問題の発見から解決までの過程を自ら主体的に学べるようにしています。

[カリキュラム体系図]

	1年次	2年次	3年次	4年次
ゼミナール科目群	基礎ゼミナール	問題発見テーマ演習 A・B	問題分析ゼミナール I・II	問題解決ゼミナール I・II
学際科目群	情報コミュニケーション学入門 A・B	情報コミュニケーション学		
第1学域 社会科学系	社会科学 家族社会学概論 ジェンダー論 情報倫理 マクロ経済学	社会科学 環境と社会 市民社会と法 I・II 政治学 ミクロ経済学	社会科学 憲法 A・B 社会心理学 A・B 犯罪と法 I・II 法学	社会科学 コミュニティ論 情報社会と経済 法学
	人文科学 異文化理解 新興国事情 地理学 比較文化(基礎) A・B	人文科学 英語文学 A・B 心理学 A・B 哲学 メディア批評 外国文学 生命論 A・B 東洋史概論 歴史学	人文科学 言語学 宗教学 地域文化論(基礎) 日本文学 小集団コミュニケーション パブリック・スピーキング	人文科学
	自然科学 科学技術史 人類学 A・B	自然科学 環境生物学 地球環境科学	自然科学 情報科学 脳科学	自然科学
	社会システム	社会システム	社会システム	社会システム
第2学域 文化と表象	文化と表象	文化と表象	文化と表象	文化と表象
	人間と環境	人間と環境	人間と環境	人間と環境
外国語科目群	English Skills A I・II (基礎 中級 上級) English Skills B I・II (基礎 中級 上級) Speech & Debate I・II	Critical Reading Critical Writing I・II Critical Discussion	English Seminar I・II 英語コミュニケーション I・II 英語音声学	
	ドイツ語 A I・II フランス語 B I・II 中国語 A I・II 韓国語 B I・II 日本語 A I・II	ドイツ語 B I・II スペイン語 A I・II 中国語 B I・II 韓国語 A I・II 日本語 B I・II	ドイツ語演習 I・II フランス語演習 I・II スペイン語演習 I・II 中国語演習 I・II 韓国語演習 I・II	
研究方法・ 表現実践科目群	(情報リテラシー科目) ICT データベース I・II ICT データ解析 I・II プログラミング実習 I・II 専門情報リテラシー	ICT アプリ開発 I・II ICT 統計解析 I・II ICT メディア編集 I・II ICT コンテンツデザイン I・II ICT 総合実践 I・II ICT ネットワーク技術 I・II・III	アルゴリズム実習 I・II ネットワーク技術 IV	
	(日本語表現科目)日本語表現 I・II	身体コミュニケーション A・B メディア・アート	デジタルアート A・B デジタルプレゼンテーション 非言語コミュニケーション メディア教育論	
海外留学科目群	国際交流 ウェルネス A・B	留学関係科目(語学・実習) A ウェルネス・スポーツ A・B	留学関係科目(講義) A ウェルネス・スポーツ C・D	留学関係科目(講義) B
	キャリアデザイン科目群 情報リテラシー科目群 総合講座 国際教育プログラム科目	キャリアデザイン ICT ベーシック I・II 総合講座 A～D 国際教育プログラム(異文化理解) I・II 国際教育プログラム(文化・歴史) I・II 国際教育プログラム(法律・政治) I・II 国際教育プログラム(経済) I・II	キャリアデザイン ICT ベーシック I・II 総合講座 A～D 国際教育プログラム(異文化理解) I・II 国際教育プログラム(文化・歴史) I・II 国際教育プログラム(法律・政治) I・II 国際教育プログラム(経済) I・II	キャリアデザイン ICT ベーシック I・II 総合講座 A～D 国際教育プログラム(異文化理解) I・II 国際教育プログラム(文化・歴史) I・II 国際教育プログラム(法律・政治) I・II 国際教育プログラム(経済) I・II
総単位	※ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・韓国語・タイ語の中から1か国語(ただし、外国人留学生については日本語)を選択			

PICK UP

英語コミュニケーション
能力特別強化プログラム

「SPICE」

情報コミュニケーション学部では、国際社会に対応できる言語力とコミュニケーション能力を身につけた学生を育成するために、独自の特別英語クラスである SPICE (Special Program for Information & Communication in English) を 2014 年度より設置しました。2013 年度から高校の英語に「コミュニケーション英語」が導入されたように、単なる会話以上の内容を議論できる能力が求められています。SPICE は、20 人以下の少人数選抜クラスで、英語でコミュニケーションができる学生を養成します。このプログラムを通じて、グローバル化時代に世界で活躍できる人材の育成を目指します。

コミュニケーション能力重視・
内容中心 (content base) の授業

英語で「スピーチ」「ディベート」「ディスカッション」ができるようになるためのトレーニングを行います。会話のためのコミュニケーションに限らず、専門的な学問を「英語」で理解するための講義も用意しています。

経験豊かな教員陣

選抜された少人数の学生に向けて、ネイティブ・スピーカーや海外留学経験のある教員が実践的な授業を行います。授業だけでなくホームワークを効果的に取り入れて、自習時間の指導にも力を注ぎます。

短期・長期留学に関するアドバイスなども提供し、
海外を目指す学生をサポートします。



▶ 多様な研究の最先端を知り、問題を発見する

「ガクの情コミ」には、さまざまな研究分野をテーマにしている専任教員が多数在籍しています。1年次は、「情報コミュニケーション学入門」を履修し、毎週交代で登場する専任教員の専門的な視点からの講義を受講します。現代社会のさまざまな問題に関する多彩なアプローチの仕方を垣間見ることは、自らが探究する研究を設定するうえで、大きな道標となります。講義科目では、「社会科学」「人文科学」「自然科学」という大きく3つに分類された科目群から、自らが興味・関心のある科目を選択することができます。また、未習外国語教育は、

言語（語学）を通じて異文化を知り、それを尊重するということを目的としています。そのための講座を「演習」科目として設定してあります。「ガクの情コミ」は、ゼミナール教育にも力を入れています。1年次には「基礎ゼミナール」が設けられ、ここで、論理的思考、資料の収集・分析、論文・レポート、プレゼンテーション等の基礎を修得します。2年次には「問題発見テーマ演習A・B」が設置されており、ひとつのテーマについて集約的な議論や輪読、また、フィールドワークや作品制作などを少人数で行い、研究を達成するための能力を育成します。

履修モジュールとは

本学部では、1年次から段階を経て学際的知識を修得することが可能となるカリキュラムを設けてあります。卒業要件の124単位のうち、専門科目群に関しては、選択必修科目として64単位以上を履修する必要があります。1・2年次では「社会科学」「人文科学」「自然科学」の[3フレーム]から計10単位（社会科学フレームから4単位、人文科学フレームから4単位、自然科学フレームから2単位）以上を、3・4年次では、残りの履修単位を勘案して、「社会システム」・「文化と表

象」・「人間と環境」の3つのフレームに配置した[科目プール]から自由に履修することができます。学生は自己の問題関心にしたがい、主体的にカスタマイズした科目履修が可能となります。

わたしたちは、それを支援するために研究課題・問題意識を具現化した[履修モジュール]というものを70種類ほど用意しました。もちろん、この[履修モジュール]は例示でしかありません。学生はそれを参考にして、履修科目を自由にカスタマイズすることができるわけです。

■ 履修モジュールの一例

テーマ	1・2年次	3・4年次
現代社会における企業に倫理は求められるか	経営学／組織論／社会心理学A・B／社会学A・B	組織コミュニケーションA・B／組織と情報／不確実性下の人間行動／倫理学／コーポレート・ガバナンスI・II
表現することと社会・政治・法の間を考える	メディア・リテラシー／政治学／市民社会と法I・II／社会学A・B／小集団コミュニケーション	情報社会論A・B／現代型犯罪と刑法I・II／知的財産法A・B／情報法A・B／個人と国家／組織と情報／ビジネスと法A・B
「芸術(アート)」と「コミュニケーション」が交差する世界を探究しよう	美学・芸術学／身体コミュニケーションA・B／音楽論／メディア・アート	音楽表現論／身体表現論／映像表現論／造形表現論／メディア教育論／デジタルアートA・B／アート・マネジメント
日本の国際社会における将来を隣国との関係から考える	日本史概論／東洋史概論	異文化コミュニケーション史／国際関係論I・II／社会文化史A・B／近・現代史I・II／地域文化論
メディアにおける都市のイメージを分析する	社会学A・B／異文化理解／地誌学	都市情報論／人文地理学／広告論／メディアの歴史／記号論
不思議現象を科学する	心理学A・B／社会心理学A・B／人類学A・B／脳科学	身体と意識／不思議現象の心理学／認知科学I・II

▶ 情報コミュニケーション学入門

「情報コミュニケーション学入門」では、本学部の専任教員がそれぞれの専門的視座から現代社会の諸問題を6つのサブテーマ群（公共性と社会システム・組織とコミュニティ・多文化と国際協調・ジェンダーと多様性・創造と表現・不確実状況・脅威状況における心理と行動）から講義します。

今後の社会で生じる問題は、より一層、複雑で多岐にわたることが予想されます。このような社会を理解し、積極的にかかわっていくには、広い視野で状況をとらえ、さまざまな領域にまたがる知を協働して問題に取り組むことが重要です。この講義を通じ、自ら問題を設定し、学域横断的な視点・アプローチで問題に取り組むための力を養うことを目的としています。

■ 「情報コミュニケーション学入門」で行われた授業テーマ(一例)

タイトル	担当教員
【公共性と社会システム】 アメリカの大統領選挙戦に見る政治コミュニケーションの変容	清原聖子
【多文化と国際協調】 多文化の考え方を比較する－イスラームにおける「平和」をヒントに	横田貴之
【組織とコミュニティ】組織やコミュニティにおける情報管理と監視	竹中克久
【ジェンダーと多様性】ファッションメディアにおけるジェンダー表象	高馬京子
【創造と表現】映像メディアによる創造と表現	大黒岳彦
【不確実状況・脅威状況における心理と行動】 幽霊を見てしまう心理を進化生物学からひも解く	石川幹人

STUDENT VOICE

1年

将来に役立つ
多角的な視野を
最大限に広げられる
環境がある



寺阪 快人

東京都私立成蹊高等学校卒業

Q 情報コミュニケーション学部を選んだ理由は？

Answer 高校生の頃から、大学ではひとつの学問に絞らず、さまざまなことを学んで、将来に役立つスキルを身につけたいと考えていました。社会科学を主にしながら、人文科学や自然科学の考えを取り込んだ、横断的な視点を持って問題に取り組むという情報コミュニケーション学部の理念を知り、まさに自分の理想とする学部だと思い志望しました。

Q 特におもしろいと思う授業を教えてください。

Answer 「情報コミュニケーション学入門」です。学部の先生が週替わりで、それぞれの専門分野における現代社会の問題を「情報コミュニケーション」の観点から講義してくださいます。1つの授業でさまざまな学問に触れられるため、新しい興味関心の発見に繋がるのはもちろん、学んだことのある分野についても、自分では気づけなかった視点を見つけられる、視野の広がる講義です。

Q 将来の目標や目指す進路は？

Answer 具体的な将来の夢はまだ決まっていませんが、一つの視点に囚われず、あらゆる側面から物事を考えられる力を養いたいです。このスキルはどんな道に進んでも求められることであり、学際的な学びができる、この学部でこそ最大限に伸ばせると考えています。明治大学で出会った仲間たちとともにさまざまな経験を積みながら、自分の進むべき道を見極めていきたいです。

STUDENT VOICE

2年

言葉を使った
コミュニケーションの
面白さと奥深さを
実感しました



井上 絹香

埼玉県私立淑徳与野高等学校卒業

Q 情報コミュニケーション学部を選んだ理由は？

Answer テレビをはじめとするマスメディアの仕事に関心をもっていため、番組制作を体験できるプログラムがある明治大学の情報コミュニケーション学部を志望しました。また、高校生の頃はやりたいたことが一つに絞りがちだったので、さまざまな分野の学問を広く学んでおきたいと考えたのも、この学部を選んだ理由のひとつです。

Q 印象に残っている授業を教えてください。

Answer 「演劇学」です。脚本、演者、演出家に分かれ、オリジナルの劇を作ります。初めは演劇という文化を扱うこの授業で、どのような学びを得られるのかわかりませんでした。グループみんなで試行錯誤を重ね、ひとつの劇を創り上げていく中で、チームで協力し物事を達成するために必要なコミュニケーションの取り方を学ぶことができました。

Q 将来の目標や目指す進路は？

Answer 多くの人と会話ができる職業に就きたいと考えています。授業でプレゼンテーションを行う機会が多かったことから、言葉を使って物事を伝えることにより強い関心を抱くようになりました。この興味を掘り下げるとともに、多様な学問を学べる環境を活かして、幅広い視野とコミュニケーション力を身につけていきたいです。

[1年次の時間割参考例]

科目名の上段は春学期、下段は秋学期

	月	火	水	木	金	土
1	－	基礎ゼミナール 基礎ゼミナール	English Skills BI English Skills BII	法学 憲法B	スペイン語AI －	－
2	－	－	環境生物学	宗教学	専門情報リテラシー(法情報)	－
3	哲学	情報コミュニケーション入門	－	スペイン語BI	美学・宗教学	－
	－	情報コミュニケーション入門A	マクロ経済学	スペイン語BII	－	－
4	数理リテラシー	English Skills AI	市民社会と法I	－	－	－
	－	スペイン語AI	市民社会と法II	ネットワーク技術II	西洋史概論	－
5	－	－	－	－	－	－
	－	クリエイティブ・コミュニケーション	－	情報科学	－	－
6	－	－	－	－	－	－

[2年次の時間割参考例]

科目名の上段は春学期、下段は秋学期

	月	火	水	木	金	土
1	－	－	－	－	－	－
2	日本史概論	－	Critical Discussion	宗教学	－	－
	小集団コミュニケーション	－	地球環境科学	－	－	－
3	哲学	ICTベーシックII	ミクロ経済学	問題発見テーマ演習A	－	－
	メディア・アート	情報社会と経済	マクロ経済学	問題発見テーマ演習B	－	－
4	社会調査法A	加圧的コミュニケーション	市民社会と法I	演劇学	－	－
	論理リテラシー	社会調査法B	－	比較文化(基礎)B	－	－
5	人類学A	－	－	－	－	－
	人類学B	－	－	Critical Reading	－	－
6	－	－	－	－	－	－

問題进行分析し、解決する

3年次以降に学習できる科目は多岐にわたりますが、必修科目はありません。「社会システム」「文化と表象」「人間と環境」と大きく3つに分類された科目群の中から、自己の興味・研究目的に合致した科目を履修すればよいのです。時には何から学んで良いか分からなくなるかもしれませんが、そのために、70種類以上の履修モジュール(履修ガイド)を策定しています。この履修モジュールは、授業科目間の関係性を明確にし、授業選択のガイドラインの役割を果たしています。3年次からは「問題分析ゼミナール」が開始され、4年次の「問題解決ゼミナール」へと続いていきます。「ガクの情コミ」

第13回情コミ・ジャーナル(論文部門)表彰作品

優秀論文(2本)

論文テーマ	学年
細川護国閣内閣期の日本社会党の動向と変容 - 自社連立の胎動を巡って -	3
日本の教養教育の問題解決としての「総合学習モデル」 - 情報コミュニケーション学部で教養教育分析 -	1

佳作論文(3本)

論文テーマ	学年
レッジョ・エミリア・アプローチにおける ドキュメンテーションの教育効果と課題	4
アメリカ・イギリスと比較した日本のポピュリズム政治 - SNS との関連 -	4
グリムから読み解く日本の民話と心	4

の最終段階です。このゼミナールは、各担当教員の主要担当科目から設定したテーマを学習する中で、現代社会における情報コミュニケーションの意義と機能を踏まえて、問題点のさらに深い理解と洞察力を養うことを目的としています。4年次の「問題解決ゼミナール」の中には卒業論文作成を目的としたゼミナールもあります。それを選択した学生は「卒論演習」と「卒業論文」という科目を履修し、情コミの4年間の集大成として卒業論文・卒業制作に取り組むことができます。さらに、その研究成果を情コミが毎年発行している『情コミ・ジャーナル』に発表することもできます。



『情コミ・ジャーナル』の表彰式



STUDENT VOICE

3年
新井 一真

埼玉県立
春日部東高等学校卒業



過去に学び、より良い未来を考える。
深めた考えが、将来の糧になる

『情コミ・ジャーナル』には今までに2回投稿。2回とも、優秀賞を受賞できたことは大きな自信に繋がりました。もともと論文制作に関する基本的な知識はもっていましたが、客観的に評価いただいたのは初めてです。原稿は日本政治史や現代日本政治論に関するテーマのもと、「政治史を通して現代政治、そしてより良い将来を考える」という自分な

りの軸をもって書き進めました。史料を調べれば調べるほど新しい発見が得られ、その度に自分の考えが塗り替えられていくことに論文制作の醍醐味を実感しました。将来の目標は、日本の政治に携わること。過去や歴史に対する理解と、知識をいかしてより良い将来を考える力などこの経験から身につけられたことをその実現に役立てたいと思います。

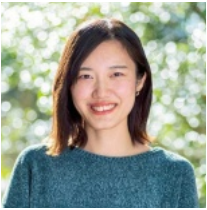
早期卒業制度

明治大学情報コミュニケーション学部では、成績が特に優秀な学生を対象に早期卒業制度を導入しています。明治大学大学院情報コミュニケーション研究科をはじめ、そのほかの大学院への進学を希望する学生は、3年次終了時に大学卒業資格(学士)を得て、進学することが可能です。

STUDENT VOICE

3年

学際的な学びのおかげで
価値観が大きく広がり、
世界に挑戦する
自信ができました



尾崎 美紅

東京都私立順天高等学校卒業

情報コミュニケーション学部を
選んだ理由は？

Answer 卒業後は世界を舞台に日本のさまざまな魅力を発信していきたいという夢をもっていた私にとって、ひとつの分野を専門的に学ぶよりも、幅広い学問に触れ、学際的な学びをすることが、将来に役立つのではと考え志望しました。実際に情報コミュニケーション学部では、法学や社会心理学といった今まで関心をもってこなかった分野にも積極的に取り組むことができています。

印象に残っている授業を教えてください。

Answer 「身体コミュニケーションB」では、沖縄の伝統的な踊りであるエイサーを創作します。私のグループは半数が外国人で、最初は思うように意思の疎通ができず苦労しましたが、回を重ねるごとにお互いの考えを理解し合えるようにコミュニケーションは言語だけでなく、心身を通じて行われるものであるということを学べました。

将来の目標や目指す進路は？

Answer 日本と海外の橋渡し役となって、日本社会をより活性化させたいと考えています。具体的には、まだ発見されていない日本の魅力を引き出し、世界へ発信する支援を行いたいです。この学部で培った、多種多様な文化を柔軟に受け入れることができる異文化適応能力は、将来世界に羽ばたく自信を与えてくれました。

[3年次の時間割参考例]

科目名の上段は春学期、下段は秋学期

	月	火	水	木	金	土
1	-	国際経済論A 国際経済論B	- コミュニケーション思想史	異文化間コミュニケーション 法コミュニケーション	-	-
2	-	- 日本文化論B	NPO論 パブリック・スピーキング	問題分析ゼミナールI 問題分析ゼミナールII	-	-
3	-	- 総合課題I(未来の自分をつかめ)	- メディア批評	-	-	-
4	ジェンダー・マネジメント 地域文化論(フランス)	国際開発協力論	- 都市情報論	- 組織コミュニケーションB	-	-
5	-	-	- 人文地理学	-	-	-
6	-	-	-	-	-	-

STUDENT VOICE

4年

学部の枠を越えた
自由な学びの経験と
磨かれた探究心をいかして、
多様な時代を乗り越えたい



安武 慶亮

東京都私立明治大学付属中野高等学校卒業

情報コミュニケーション学部を
選んだ理由は？

Answer 多彩な授業の中から、自分の興味関心に応じたものを選ぶことができる、自由なカリキュラムが魅力的だったからです。分野横断的に学べる環境をいかし、これまでの自分の興味の幅を越えたさまざまな学びに触れることで、自分なりの視点で物事を捉える力がつくのではないかと考え、この学部を選びました。

印象に残っている授業を教えてください。

Answer 「情報コミュニケーション学」です。この授業では、他大学・研究機関の専門家に、さまざまな地域の世界情勢について講義をしていただきます。国内のメディアが有事の際のみ取り上げる国際問題がその後どうなったのか、日本ではなかなか詳しく知ることのできない世界各国の実情について、興味をもつきっかけとなった授業でした。

将来の目標や目指す進路は？

Answer 学部という従来の枠にとらわれない、自由で個性的な学びを経験できた4年間。幅広い学問に触れ、留学を経験したことで、自分のせまい価値観を痛感し、入学時よりさらに大きな探求心を得られました。就職先では学部での経験をいかしながら、常に学び続けることを忘れず、多様化する社会に立ち向かっていきたいです。

[4年次の時間割参考例]

科目名の上段は春学期、下段は秋学期

	月	火	水	木	金	土
1	認知科学I 認知科学II	-	情報コミュニケーション学 情報コミュニケーション学	-	-	-
2	人間性心理学 -	-	- メディアの歴史	-	不思議現象の心理学 身体と意識	-
3	アート・マネジメント 広告論	-	-	-	-	-
4	-	-	問題解決ゼミナールI 問題解決ゼミナールII	-	-	-
5	近・現代史I 近・現代史II	-	-	-	- 東南アジア理解講座	-
6	-	-	-	-	-	-

ゼミナール教育で得られる「ガクの情コミ」の醍醐味



ゼミナール（略称「ゼミ」）では、10～15名程度の比較的少数の学生がひとりの教員とともに、通常の大教室の授業では得られない双方向のコミュニケーションをとりながら学んでいきます。大学で学ぶことの初歩から専門的分野、資料の読み方や議論の仕方、レポート・論文の作成、プレゼンテーションまで幅広く、学んでいきます。大学における「学び」の醍醐味が得られるのがゼミナールなのです。本学部では、1年次から4年次まで段階的に履修するゼミナール科目を設置しています。1年次は基礎ゼミナール、2年次には問題発見テーマ演習、3年次には問題分析ゼミナール、4年次には問題解決ゼミナールが置かれています。3・4年次は2年間一貫して同一のゼミを取らなければなりません。

■ 学年ごとに所属ゼミを変えた場合

異なる分野を研究することで物事を多角的に見る能力が身につきました

4年
大海 雪乃
北海道
札幌市立札幌旭丘高等学校卒業

●なぜ、学年ごとに異なるゼミを選択しようと思ったのか教えてください。

ゼミを通してより多くの仲間と関わることができれば、増やせる知識もさらに広がると考え、学年ごとに異なるゼミを選択。1年次では18歳選挙権について若者の意識調査、3・4年次ではオリンピック専門メディアの取材など昨今話題のトピックスにアンテナを張り巡らしながら、自主的な姿勢で取り組みました。どのゼミでもインプットするだけでなく、疑問を持って深く追究することができたと思います。

●学年ごとに異なるゼミに所属して、よかったことは何ですか。

ゼミ活動を通して政治・法律・ジャーナリズム・スポーツなど幅広い分野を専門的に学び、自分の興味や将来やりたいことを4年間じっくりと見極めることができました。また、プレゼンや取材などゼミによって重点を置く取り組みも異なるため、それぞれのスキルが身についたこともよかったです。卒業後は新聞記者として一歩を踏み出すので、社会の諸問題を複数の切り口から捉えられるようになりたいです。



■ 4年間、同一ゼミに所属した場合

興味があることに突き進むことができた充実の4年間

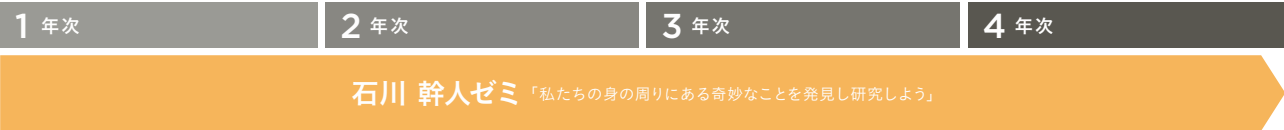
4年
何 宇傑
中国浙江省
寧波市第三高等学校卒業

●なぜ、このゼミを選択しようと思ったのか教えてください。

私は超常現象や未知なるものの背景にはどんな科学知識が潜んでいるのかについて入学前から大変興味を持っていたため、研究テーマにしたいと強く思っていました。中でも、私たちの身の周りに潜む奇妙なことを再発見したいと思いこのゼミを選択。本学部は日本で唯一「超心理学」を研究している学部ということもあり、ここでしか研究できないような超心理学や人体科学を学ぶことができました。

●4年間を通して同一ゼミに所属して、よかったことは何ですか。

1・2年次の活動では疑似科学、生物進化論について先生から与えられた問いについて考えて知識を増やし、3・4年次ではそれらの知識を活かして自分で問いを見つけて研究しました。4年間を通して、段階を踏みながら受動的から能動的勉強に切り替えたことで、着実に知識と問題解決力を身につけられたと思います。今後はゼミでの経験を活かしながら個のスキルを高め、チームを引っ張れる人になりたいです。



PICK UP ゼミナール

清原 聖子 ゼミナール

インターネットと政治ーフェイクニュースを見分ける目を養おう

清原 聖子 教授

ソーシャルメディアの普及によって、政治コミュニケーションも大きく変化しています。清原ゼミナールでは、日米比較政治の視点から、政治におよぼすインターネットの影響やその役割について研究しています。アメリカ大統領選挙以来国際的な関心も高まっている「フェイクニュース」について、どのようなニュースが「フェイクニュース」なのか、それを見分ける目を養うことを主眼に、ヤフー・朝日新聞と合同調査を行いました。また本ゼミは、例年OB・OGも参加するディベート大会を行っており、政治学的思考力により、コミュニケーション力を高めることを目標としています。



PROFILE -----
清原 聖子：専門は現代アメリカ政治とメディア・ICT政策。インターネットがどのように政治社会を変化させるのか、という点に研究の関心があります。2014年9月～2016年8月まで米国・ジョージタウン大学にて研究に従事。国内外の研究者と、『インターネット選挙運動に関する日米韓台比較研究』というテーマで共同研究を行ってきました。

根橋 玲子 ゼミナール

異文化間コミュニケーション問題を調査・分析する

根橋 玲子 教授

経済活動に伴う人の流れは国境を越え、ますますダイナミックになっています。日本も例外ではなく、多くの日本人が国外で、また多くの外国人が日本で働いています。彼らは単に働いているのではなく、そこにはそれぞれの生活と人生があります。また移動する人々やその家族はもちろん、受け入れる人々にも彼らの生活や人生があります。本ゼミナールでは、そうした人々の間に時としてできる「心の壁」を取り払い、より豊かな多文化共生社会を構築するには何をしていくべきかを課題としてさまざまな視点から取り組んでいます。また、交換留学生を積極的に受け入れ、所属ゼミ生の多数が留学や海外インターンに出るのも本ゼミの特長です。



PROFILE -----
根橋 玲子：日本人が文化背景の異なる人々と接触する際に起こす心理プロセスおよびコミュニケーション問題を大きなテーマに、海外で働く日本人と現地従業員、日本国内に住む外国人と周辺住民等を対象にフィールドワークを行っています。

牛尾 奈緒美 ゼミナール

業界・企業研究で日本経済の未来となすべき仕事を見出そう

牛尾 奈緒美 教授

グローバル経済の進展により企業活動の範囲は飛躍的に広がり、ビジネスの変化のスピードも加速度的に増えています。当ゼミでは、経営学的視点を中核に据え、現代日本のさまざまな業界や企業行動について研究を行います。スマホやSNS、カフェなど普段何気なく利用しているモノやサービスは一体どんな企業が提供し、その企業が属する業界ではどんな競争が繰り広げられているのでしょうか？ こうした身近な生活から問題意識を引き出し、将来自分がなすべき仕事や社会が目指すべき方向性についてみんなで考えていきます。歴代のOBやOGとの交流も盛んで、和気あいあいとした雰囲気が自慢です。



PROFILE -----
牛尾 奈緒美：専門は経営学です。少子高齢社会の中、女性や若者の活躍がより一層求められており、仕事と私生活の両立や働きがいのある組織について研究を行っています。私自身、フジテレビアナウンサーを結婚退職後、大学院、出産、育児との両立で大学教授のキャリアを築きました。ゼミではこの経験をいかすべく、勉学のみならず人生の先輩としてみなさんとの対話を重視しています。

小田 光康 ゼミナール

オリンピックを取材し、感染症予防のゲーム教材を開発

小田 光康 准教授

ゼミは「オリンピック報道班」と「メディア教育開発班」があります。前者は米五輪専門メディア『Around The Rings』の協力のもと、プロの記者として2020年東京五輪・パラリンピックを取材し、英語・日本語で報道しています。2016年のリオ五輪、2017年の札幌アジア大会と野球の世界大会(WBC)などの取材実績があります。後者は国立感染症研究所、東京農工大学、タイ・チェンマイ大学と共同で、国境や言語、階級や年齢を越えた感染症予防と貧困撲滅のため、スマートフォンのゲームアプリをベースにしたメディア教材を開発しています。



PROFILE -----
小田 光康：米国で応用生物学と経営学、日本で社会情報学と高等教育学をそれぞれ大学院で学びました。外資コンサルティング、国内外大手マスメディア、NGO・起業などの経験をいかして、ジャーナリズムの理論と実践の融合を目指した教育研究に携わる一方、感染症予防の国際舞台で未開領域を開拓する文理融合型の学際研究をしています。

「ガクの情コミ」学部ならではの 多様な科目

外国語科目群

英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ

ドウ,ティモシー J. 専任講師

This course teaches English communication skills so that you can use English to interact with people from around the world. In every class, students have many opportunities to use English and develop their communication skills in group discussions and activities.



3年
柳川 泉美
愛知県立
岡崎高等学校卒業

日常会話に生かせる英語の知識を身につけることができました。春学期ではトーク番組やドラマの登場人物のやりとりからフレーズを取り上げて実践的な英語を学習。秋学期ではSlangやHumorなど、言語や文化によって異なる表現を調べ、クラスメイトと意見を交換しながら理解を深めました。積極的に英語を話せる環境なので語学力を向上させたい人にはぴったりです。

情報リテラシー科目

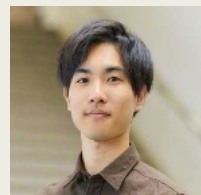
プログラミング実習Ⅰ・Ⅱ

山崎 浩二 准教授

私たちはなんらかのソフトウェア＝プログラムを通してコンピュータを利用します。したがって、プログラムがどのように動作し、どのように作成されるのかを理解することは、コンピュータに対する理解を深めるために重要です。この科目では、プログラミング言語としてJava



言語を用い、実習を通してプログラミングの基礎を学びます。



2年
出田 潤一郎
熊本県立
済々黌高等学校卒業

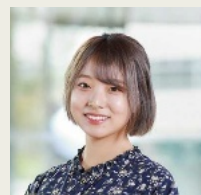
プログラミングの基礎やコンピュータが動く仕組みについて一から学習。普段から興味があったインターネット上のサービスの仕組みについて理解を深められました。また、技術を学ぶことで、物事を順序立てて論理的に考えられるようになり、成長を実感。基本から丁寧に教えてくださるため、プログラミングに関する知識がない方でも安心して受講できます。

日本語表現科目

日本語表現Ⅰ・Ⅱ

内藤 まりこ 専任講師

日々私たちは自分とは異なる経験、背景をもつさまざまな人々に出会っています。「日本語表現」では、他者の考えを正確に理解し、自分の考えを人々にわかりやすく伝えるための方法や技術を体得し、本学部の目指す教育目標の基礎を培うことを目指します。「日本語表現Ⅰ」では、「書くこと」に焦点を絞り、日本語表現の諸形式を学び、目的や状況に応じた日本語での作文の技術を身につけます。「読むこと」を中心とする「日本語表現Ⅱ」では、さまざまな形式による日本語表現の読解を通じて、日本語を取り巻く多様なテーマについて考察し、自らの思考を複数の表現形式にまとめる実践も行います。



1年
小山 奈夏
滋賀県立
米原高等学校卒業

これまでに書いてきた作文と論文の違いや、文章の展開の仕方や文献の引用ルールを学べます。4,000字程度の論文を提出する課題がありましたが、先生から丁寧なアドバイスがいただけるので、理解を深めながら仕上げることができました。文章表現スキルが高まり、他の授業のレポート課題にスムーズに取り組めたので、1年生全員におすすめしたい科目です。

クリエイション科目

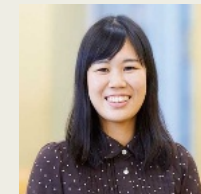
デジタルアートA・B

宮川 渉 特任准教授

私たちは自分の考え、感情などを常に表現して生活をしています。その意味では誰もが表現者であり、クリエイターであるといえます。これまで作曲は専門的な訓練を積まないと不可能だと考えられてきました。しかし、今日のテクノロジーの進歩により、パソコン一台で誰もが創作者になることが可能になりつつあります。



パソコンのソフトウェアを用いた音楽制作の実践を通じて受講者自身の表現力と創造性を高められる授業を目指しています。



4年
深沢 美智
静岡県立
駿河総合高等学校卒業

パソコンを使って音楽をアレンジするスキルを学ぶことができました。電子音楽の成り立ちや音楽の仕組みを理解することで、テレビなどで音楽を耳にする際も、ただ聞くだけではなく、深く考えられるようになり、メディアリテラシーも身についたと思います。音楽を聞く、演奏するだけではなく、つくる経験を通じて、自身の中に新たな価値観が生まれたことを実感しています。

リサーチリテラシー科目

科学リテラシー

石川 幹人 教授

マイナスイオンにゲルマニウム、コラーゲンからデトックスまで、人体に有効とされるもののブームが現れては消えていきます。それらには十分な科学的証拠がないまま、宣伝ばかりが先行しています。科学の信頼をよそおった疑似科学ビジネスなのです。自然科学はもとより、社会科学や人間科学の発展が文明を支えてきましたが、科学の先端では不確実な理論やデータがあふれています。本授業では、科学的なものの見方や考え方を身につけ、科学と疑似科学とを適切に評価できるようにします。高校まで確実な知識ばかりを習ってきた方には、目からウロコが落ちるような体験があるでしょう。



2年
新井 みゆ
東京都
私立光塩女子学院高等科卒業

情報コミュニケーション学部では、メディアという視点からさまざまな内容を扱います。「科学リテラシー」は名前から理系の授業のように思われますが、メディアの視点から科学を捉える科目で、本学部の特色を感じられる学習内容です。普段目にする科学分野の情報について正しい見識を得られ、学習内容を日常生活の中で活かせる有意義な講義だと思います。

キャリアデザイン科目群

キャリアデザイン

キャリアデザイン科目群では、1年次に「キャリアデザイン」、2年次に「インターンシップ入門」、3年次に「インターンシップ」の授業を設置し、大学卒業後に社会で働くことについて主体的・実戦的に学べるよう充実したプログラムを提供しています。「キャリアデザイン」では、企業やNPO等の第一線で活躍されている方々から、仕事や学生時代について話を聞き、働くことの意味について考えます。「インターンシップ入門」では、ビジネスマナー講習や業界・企業研究を通じて、より実践的にインターンシップの概要を学びます。「インターンシップ」は、履修生が受け入れ企業・機関でインターンシップ実習を行うことで、単位認定を行う科目です。



2年
小林 祐也
山梨県
私立駿台甲府高等学校卒業

さまざまな講師の方から、自分のキャリアを開拓していった経緯を聞くことができます。先生方はそれぞれに独自の哲学を持っておられ、経験談などを通して、現代の学生に必要なことは何か、示唆に富んだ講義が繰り広げられます。「働くこと」とは何か考えさせられる内容で、やりたいことを探している人、自分自身の将来について深く考えたい人にぴったりの授業です。

情報コミュニケーション学部の 国際交流プログラム

情報コミュニケーション学部では、明治大学全体で実施されている国際交流とは別に、学部独自の短期学生交流プログラムを積極的に推進しています。
以下で紹介するプログラムは本学部設置科目「国際交流」の一環として実施しています。

タイ・ラオス

シーナカリンウィロート大学、モンクット王ラカバン工科大学、ラオス国立大学との短期学生交流プログラムを実施

2010年度からタイへの学生派遣プログラムおよび本学への受入プログラムを実施し、海外との学生交流を深めています。2019年度も、タイのシーナカリンウィロート大学、モンクット王ラカバン工科大学、ラオス国立大学との10度目となる短期学生交流プログラムを実施しました。



日本文化体験

タイ・ラオスからの学生受入プログラム

このプログラムでは、タイのシーナカリンウィロート大学人文学部、モンクット王ラカバン工科大学教養学部、ラオス国立大学文学部の3大学から合計14名の学生を2019年6月に約3週間受け入れ、「タイへの学生派遣プログラム」に参加する本学部生18名が、受入サポートを行いました。来日した学生は、本学部講義への参加を通じて、日本語や日本文化への理解を深め、山中セミナーハウス合宿に参加したり、企業訪問をしたりと、充実した時間を過ごしました。

タイへの学生派遣プログラム

このプログラムの目的は、異なる社会や文化背景をもつ同世代の学生と交流し、自国文化について認識を深め、異なる文化を尊重できるようになることです。さらに、海外、特にアジアで働くことについて積極的な態度で臨めるようになることを目的としています。参加学生は、タイ文化を事前に学んだ後にタイへ出発します。2019年度は、8月26日から9月9日まで15日間、シーナカリンウィロート大学にて比較文化ワークショップや授業に参加したほか、在タイ日系企業を訪問、そしてアユタヤ遺跡や王宮を見学しました。学生たちは国籍が違いながらも、勉強だけではわからないお互いの国の文化について話し合い、交流プログラムの目的を果たしました。短い期間の中で、タイの文化や社会を自分の目で確かめることができる内容のプログラムとなりました。



タイ料理の文化体験



現地学生とディスカッション

ニュージーランド

ニュージーランド海外ロケ体験プログラムをフジテレビと共同で実施

このプログラムは、2015年度からフジテレビとの共同でニュージーランドでの海外ロケ体験を行うプログラムです。

ニュージーランドのオークランドで行う海外ロケ体験のほか、メディアに関する事前講義や機材の扱い方の習得、そしてロケ終了後はフジテレビ湾岸スタジオの専用スタジオでの模擬番組制作をプロの番組ディレクターの指導の下で行います。番組制作の一連の作業を通して、制作者の視点からメディアリテラシー（＝テレビを見る目）を養うことを目指します。

2019年度は29名の学生が、2月末に事前学習を実施後、2月23日から3月1日にニュージーランドでの現地ロケを行い、帰国後の事前学習を経てスタジオでの番組制作に臨みました。参加学生たちからは、「取材をしていくうちに自分自身が調べていることについて興味をどんどんもち、調べるのが楽しくなっていました。」「『まずは話してみること』の大切さを実感しました。」「今回学んだことをいかしてもう一度番組制作をしたいです。」などの声上がる満足度の高いプログラムです。

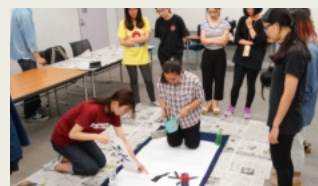


現地での取材風景

ベトナム

ベトナム国家大学ハノイ外国語大学、ハノイ大学との短期学生交流プログラムを実施

このプログラムではASEAN諸国の中でも重要な親日国のひとつであるベトナムについて、成長がもたらした変化と混乱を日本の高度成長との比較から考察します。2014年度からベトナムへの学生派遣プログラムおよび本学への受入プログラムを実施しています。



サポーター学生企画の習字教室

ベトナムからの学生受入プログラム

ベトナム国家大学ハノイ外国語大学日本語文化学部から、合計7名の学生を2019年6月に約3週間受け入れました。受入プログラム期間中は、9月の派遣プログラムに参加する学生12名がサポーターとなり、受入学生の日本語の学習や生活のサポート、大学内や都内の案内をしました。受入学生は、本学部の授業、富山県立山町での文化体験などを通して、明治大学や日本について理解を深めました。

ベトナム・タイへの学生派遣プログラム

2019年9月7日から9月19日までの13日間、タイのシーナカリンウィロート大学と、ベトナム国家大学ハノイ外国語大学への短期派遣プログラムを実施しました。このプログラムでは、ASEAN諸国の現代社会と文化を理解するために有意義な団体や活動現場での実習・見学に加え、2019年は、タイ・ベトナムの学生との共同調査・研究、ハノイ国連本部（UN HOUSE）での英語による報告会などを実施しました。現地学生との協働作業ではお互いのやりとりが自然と増え、非常に良い交流学習の場となりました。



UN HOUSEでの報告会

インドシナ

文部科学省・大学の世界展開力強化事業採択プログラム「インドシナ経済回廊研修プログラム」を実施

このプログラムは、経済成長が著しいCLMV諸国（カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム）およびタイを視察し、①経済成長や都市社会形成がもたらすメリットと弊害を実地で知り、②日本の高度成長の要因とその弊害ならびに弊害に対し取られた対策を学び、③国連が掲げる持続可能な開発目標の達成に向け日本の開発支援ができることを考え、④その知見をアジアの学生と共有する機会の組織化をアクティブ・ラーニングとして実施することを目的としています。



バンコクの交流学习での成果発表会

2019年度は約3週間におよぶプログラムのうち、第1週はタイ・バンコクのシーナカリンウィロート大学の学生との交流学习を実施しました。第2週はカンボジアのカンボジア工科大学と共同調査やフィールド研修を、最終週はベトナムで、ベトナム国家大学ハノイ外国語大学の学生と交流学习をアクティブ・ラーニングとして実施し、最終報告会を組織しました。



シェムリアップの小学校で子どもたちと交流

情コミ学部独自の学部間協定留学

学部間協定留学とは、情報コミュニケーション学部が独自で協定を締結している大学・学部に、交換留学生として半年または1年間留学するプログラムです。

協定校	シーナカリンウィロート大学 人文学部	成均館大学 芸術学部	香港城市大学 人文社会科学院	ベトナム国家大学 ハノイ外国語大学 日本語文化学部	ハノイ貿易大学	ゲーテ大学 言語学・文化学・ 芸術学部
所在地	タイ・ バンコク	韓国・ソウル	中国・ 香港特別行政区	ベトナム・ハノイ	ベトナム・ハノイ	ドイツ・ フランクフルト
授業言語	英語/タイ語	英語/韓国語	英語	英語	英語	英語/ドイツ語



- ①主な担当科目
- ②担当ゼミナール(3年次 問題分析ゼミナール)
- ③メッセージ



阿部 力也 教授
いろいろな犯罪にみる
「現代の特徴」の考察
共犯の比較法的考察
(とくに日本法とドイツ法)

- ① 犯罪と法、現代型犯罪と刑法
- ② 「犯罪と法」をめぐる重要論点の分析
- ③ いろいろな「もの」の「見方」のなかから、「法的な思考」を身に着けるメソッドに気づいて欲しいと思う。意外に、皆さんにとって現代社会を生き抜くための「方策」になるのでは？



清原 聖子 教授
フェイクニュースの研究、
ネット選挙研究、
現代アメリカ政治研究

- ① 情報政策論
- ② 現代アメリカ政治研究
- ③ ソーシャルメディアが普及した現代の情報社会を生きていくために、本学部でインターネットを切り口に学ぶ政治学的視点が役立つでしょう。



大黒 岳彦 教授
「メディア」と「情報」の
思想・哲学的研究

- ① 哲学、メディア論
- ② 現代社会の「現在(いま)」を多角的に掘り下げる
- ③ 自分だけの「問題」を見つけ、それにとことんこだわること。



小田 光康 准教授
マスメディアと高等教育
の比較制度分析、ジャー
ナリズム・マスコミュニ
ケーション教育、メディア
クリエイティブ

- ① メディア教育論
- ② 「オリビック報道」と「メディア教育開発」に関する研究
- ③ メディアを通じて情報発信するメディアリテラシーが求められる現在、メディアの現在進行形を一緒に学びましょう。



武田 政明 准教授
男女、パートナー、夫婦、
親子、家族等の間に
生ずる法的諸問題

- ① 市民社会と法、家族と法
- ② 男女、夫婦、親子、親族、高齢者等に関する生活上の諸問題の発見と分析
- ③ 問題の原因を根本から考え、積極的に解決策を提言しようとする姿勢を大切にしています。



日置 貴之 准教授
歌舞伎における
戦争・災害表象、
近現代日本における
演劇・芸能の古典化

- ① 日本文学、日本文化論
- ② 日本演劇研究。江戸時代後半から明治時代の演劇(歌舞伎)における災害や戦争の描写。
- ③ 「研究」ということを堅苦しく考えず、身の回りのどんなことでも研究対象になりうるのだと思ってください。自分が関心を持っている事柄について、少しじっくり考えてみましょう。



和田 悟 准教授
法分野を中心とした
情報技術応用

- ① 情報社会と安全
- ② アジアに目を向け情報社会と情報技術について考える
- ③ いそがず、じっくりゆきましょう。



内藤 まりこ 専任講師
日本文学・文化研究、
東アジア地域を
対象とする
比較文学研究

- ① 日本語表現
- ② 言語表現を読み解く「技法：理論と実践」
- ③ 文学や映画を題材に、世の中を少し異なる角度から眺める方法を身につけるお手伝いをします。



石川 幹人 教授
人間の認知機能を
生物進化の歴史に
位置づけ、さまざま
心理現象の背景を探る

- ① 科学リテラシー、脳科学、認知科学
- ② 私たちの身の回りにある奇妙なことを発見し探究しよう
- ③ 人間と社会、それを取り巻く地球環境などと、大きなことを見とのお力を養ってください。



施 利平 教授
東アジアにおける
家族・親族関係の
変容と持続

- ① 家族社会学
- ② 恋愛・結婚・家族の社会学
- ③ 知力とともに知力、体力とコミュニケーション力を身につけよ！



田村 理 教授
フランス憲法史、フランス
革命と憲法、
日本の政治文化と立憲主義

- ① 憲法、人権と政策、個人と国家
- ② 現代社会とのつながりをつくるーニュース・サイト制作を通じて
- ③ 与えられたレールにのっていけばよい時代は終わりました。社会にアピールして居場所をつくる発信力を大学で身につけてください。



川島 高峰 准教授
非欧米圏における
近代化・民主化の比較

- ① 政治学、政治とメディア
- ② 課題先進国日本と地球規模課題(国連持続可能な開発目標)を国際交流・地方創生・映像制作から学ぶ
- ③ メディアを通じて情報発信するメディアリテラシーが求められる現在、メディアの現在進行形を一緒に学びましょう。



竹中 克久 准教授
組織社会学、
組織における文化と
シンボルの研究

- ① 組織論、組織と情報
- ② 組織社会学ー現代社会を読み解く
- ③ 大胆な発想から精緻な論理を組み立てる楽しさを伝えていきたいと考えています。



蛭川 立 准教授
心身問題への
人類学的アプローチ。
儀礼とコスモロジーの
研究

- ① 人類学、身体と意識、不思議現象の心理学
- ② 人類学と意識研究
- ③ 世界には不思議がいっぱいです。よく観察し、よく考察しましょう。



後藤 晶 専任講師
行動経済学・実験経済学
協力行動・利他的行動に
関する研究

- ① 情報と経済行動、不確実性下の人間行動
- ② 行動経済学・実験経済学：人間の行動と社会制度を考える
- ③ 大学時代はさまざまなことに「悩む」時代です。よく悩み、いろいろなことにチャレンジして、自分の新たな可能性を切り拓きましょう。



宮田 泰 専任講師
現代社会における
私的紛争の解決を
めぐる制度と
手続きの考察

- ① 紛争解決システム論
- ② 紛争解決システム論
- ③ 情報コミュニケーション学部でともに学びましょう。



今村 哲也 教授
情報社会における
知的財産法上の
政策課題の検証

- ① 知的財産法、財産と法
- ② 知的財産に関する諸問題の研究
- ③ 情報社会を生き抜くためには、知的財産法に関する知識と理解が必要です。



鈴木 健 教授
カルチュラル・スタディーズ
読得コミュニケーション論

- ① パブリック・スピーキング
- ② プリティッシュ・カルチュラルスタディーズ入門ーメディア批評の方法論を学ぶ
- ③ 現代社会を言語と文化を通して読み解く方法を学びましょう。



塚原 康博 教授
高齢化時代の
公共政策

- ① 公共政策
- ② 現代社会と情報コミュニケーションー問題分析・問題解決編ー
- ③ ひとつの事例に対して、多様な見方、感じ方のできるような人間になってください。



熊田 聖 准教授
ビジネスにおける
交渉での満足できる
合意の要因は何か

- ① 意思決定論
- ② 意見の対立している分野を取り上げ、調査し、自分の考えを明確にし、それを他人に説明できるようにする
- ③ あなたのうちの理系と文系の知識を統合すると、社会の問題をじっくり考えられるようになります。



田中 洋美 准教授
メディア、レジャー、
ライフスタイルの
ジェンダー分析

- ① ジェンダー論
- ② Shifting Boundariesー差異・境界の社会学
- ③ 枠にとらわれない発想力を鍛え、自らの思考を自由にしていきたいと思います。



堀川 悦子 准教授
「ジェンダー」視点で
コミュニケーションから
法制度までを分析

- ① ジェンダーと法
- ② ジェンダーに基づく性暴力、ヒューマン・セクスロロジー
- ③ 「ジェンダー」を知っている人も知らない人も、一緒に学び、考えてみましょう。



小林 秀行 専任講師
災害社会学、災害情報論、
リスク社会論。とくに、住
民主体の災害対策や災害
復興に関する研究

- ① リスク社会論
- ② リスク社会をどう生きればいいのかー調整と共生から考える現代社会ー
- ③ 大学は、新たなものへと触れる機会に溢れた場所です。多くに触れ、学び取り、あなただけの夢や志を見つけていきましょう。



脇本 竜太郎 専任講師
防衛性の社会心理学
特に存在脅威管理理論、
公正さの判断

- ① 社会心理学
- ② 社会心理学：特に防衛性からの人間および社会理解
- ③ 心と社会の相互作用という視点から、人間を多面的に理解する姿勢とスキルを身につけましょう。



岩淵 輝 教授
生命論(生命とは何か)
生命思想史
グスタフ・フェヒナーの
精神物理学

- ① 生命思想史
- ② 生命の探究
- ③ 好きなこと、本当に大事だと思うことを、追求しつづけてください。



鈴木 健人 教授
国際安全保障、冷戦史、
構成主義の
国際政治理論の研究

- ① 国際関係論
- ② 米国の覇権が揺らぎを見せる中で進んでいる国際秩序の変動を理解し、日本の進むべき方向を見定める
- ③ 厳しい現実を冷静に分析し前向きに問題解決を考える、たくましさをも身につけよう。



根橋 玲子 教授
主に日本人の
異文化接触における
対人コミュニケーション
行動

- ① 異文化理解
- ② 異文化間コミュニケーション
- ③ 人間のコミュニケーション行動を客観的に理解することで視野を広げましょう。



高馬 京子 准教授
日仏メディアにおけるファ
ッションの形成と伝達、トラン
スナショナル・コミュニケーションに
おける「文化」形成、および(カ
イ)文化概念に関する考察

- ① 超文化論、地域文化論
- ② ファッション・スタディーズ：メディアにおいて構築/伝達されるファッション(服飾流行)
- ③ 自分の夢に近づけるため、大学でいろいろな経験を積んで視野を広げ、好奇心、探求心、バイタリティーを磨いていきましょう。



中里 裕美 准教授
地域通貨研究、
経済社会学、
社会ネットワーク論

- ① ネットワーク社会学
- ② 社会ネットワークくつながらの研究
- ③ 大学生活を通して、自分が夢中になれる何かを見つけてください。



山内 勇 准教授
日本企業のイノベーション
活動、知的財産制度に関
する実証研究

- ① 情報社会と経済、情報産業論
- ② イノベーションの経済学
- ③ 情報社会やデータエコノミーで活躍できる「人間力」を養いましょう。データやAIなど素材や道具だけではイノベーションは起こりません。



坂本 祐太 専任講師
言語理論に基づく「ことば」
の研究

- ① 言語学
- ② 「ことば」の不思議を分析する力を身につける
- ③ コミュニケーションの代表的なツールである「ことば」が持つ様々な不思議と一緒に紐解きましょう。



森 達也 特任教授
特に映像リテラシーの観
点から、メディアやジャー
ナリズムのありかたと思
い、そして現状の問題点
を考察する

- ① メディア・リテラシー、ジャーナリズム論
- ② メディア・リテラシーと情報との距離と角度
- ③ 水や空気と同じようにメディアは不可欠なもの。ならば正しい使い方を知らないと。



牛尾 奈緒美 教授
企業に働く人々が
ジェンダーの枠を
越えて活躍できる場・
方策を考察

- ① ジェンダー・マネジメント
- ② 業界や企業の研究を通じて、社会的問題を解決する方法を見つけ出す
- ③ 好きなキャリア、自分にあった生き方とは何か、この4年間でじっくり考えてみませんか。



須田 努 教授
人間社会における暴力の
問題・日本近世民衆の朝
鮮観・国民国家の形成と
在来文化の変容など

- ① 社会文化史
- ② 異文化コミュニケーション史・社会文化史の研究
- ③ 歴史的視座、「情コミ流儀」の歴史学を学び、タフな主体的知を形成していこう。



宮本 真也 教授
コミュニケーションと
相互承認の社会理論

- ① 社会学、コミュニケーション思想史
- ② 現代社会と社会理論
- ③ 「私」と社会について、考えたり、語り合う愉しみを覚えてください。



島田 剛 准教授
産業政策、インパクト評
価、災害復興をソーシャ
ル・キャピタル(社会関係
資本)の視点から研究

- ① 国際経済論
- ② アフリカへの援助はどうあるべきかー政策提言を考える
- ③ 格差が世界的にも国内でも拡大しています。どのような解決方法があるか考えていきましょう。



南後 由和 准教授
都市とメディア、
建築と社会に関する
理論的・実践的研究

- ① 都市情報論
- ② 東京から〇〇を研究する
- ③ 理論と実践をつなぎ、異分野を越境していく貪欲さに期待しています。



山崎 浩二 准教授
コンピュータを用いた
さまざまな
シミュレーション

- ① 情報科学、プログラミング実習
- ② ソフトウェア開発とアルゴリズム
- ③ 自分がおもしろいと思えるものを見つけ、大学を楽しんでください。



高橋 華生子 専任講師
国際開発、
都市・地域計画、
NGO研究

- ① 国際開発協力論
- ② 国際開発における市民活動の可能性ーグローバルな課題に対して考える・動くー
- ③ フットワークをいかにして、経験からの学びと遊びを一緒に探っていきましょう。



宮川 渉 特任准教授
作曲と音楽学研究

- ① 音楽論、デジタルアート
- ② 音楽を中心としたアート実践研究
- ③ 既成概念にとらわれず、失敗を恐れず、積極的に色々なことに興味をもって取り組んでください。



江下 雅之 教授
技術と産業・社会の
相互作用的関係の研究

- ① 情報社会論、メディアの歴史
- ② 情報環境の(いま・ここ)：メディア史の視点からメディアの転換を考察する
- ③ 実用的な知識は社会になればイヤでも習得するもの。大学生の時代こそ役に立たないことに熱中しましょう。



関口 裕昭 教授
ドイツ抒情詩、
日独比較文化論

- ① 比較文学・比較文化、ドイツ語
- ② メルヒェン研究/映画と文学の比較研究
- ③ 異質なものとの出会いを通して、自分の世界を広げ、深めていきましょう。



山口 生史 教授
組織がうまく
機能するための
コミュニケーション学

- ① 組織コミュニケーション
- ② 組織コミュニケーション研究：質的研究
- ③ みなさんとともに組織の問題をコミュニケーションの視点から考えていきたいと思います。



鈴木 雅博 准教授
学校組織における教師間
相互行為

- ① 情報社会と教育
- ② 学校の社会学
- ③ 学ぶほどに問いが深まり、問いが深まるとそれまでの自分の考えが揺らぎます。自分を揺さぶる学びをしてみませんか。



波照間 永子 准教授
身体技法および舞踊技
法の研究、無形文化財の
アーカイブ化(記録・保存)、
現代芸術の創造

- ① 身体表現論
- ② 芸術コミュニケーション研究ー社会におけるアートの役割・問題を検討するー
- ③ さまざまな体験を重ね、試行錯誤しながら、あなた自身の「ぶれない軸」(強み)を見つけましょう。



横田 貴之 准教授
中東地域研究、
イスラーム主義運動研究

- ① 多文化と相互理解、地域文化論
- ② 中東・イスラーム研究ー現代中東とイスラームから異文化と世界を学ぶー
- ③ 知的興奮は待っていても、来てはくれません。自分の力で見つけに行きましょう。



ドウ、ティモシー J. 専任講師
第二言語取得

- ① 英語コミュニケーション、英語音声学
- ② Second Language Acquisition, Language Teaching Methodology, Discourse and Conversation Analysis
- ③ Don't be discouraged by your mistakes - they are your biggest opportunities to learn and develop!

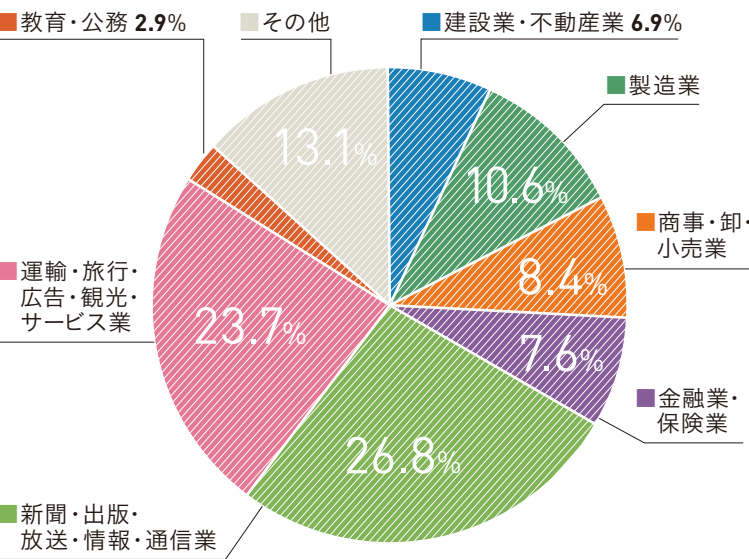


永井 健太郎 助教
マス・コミュニケーション
論、メディア・テキスト分析、
環境コミュニケーション

- ① マスコミュニケーション論
- ② 自分が「やりたい」「知りたい」と感じるものを見つけ、全力で探しましょう。

情報コミュニケーション学部の就職実績

業種別 就職状況 (2019年度卒業者)



主な就職先企業・団体名

建設・不動産業		
・(株)一条工務店	・(株)奥村組	・(株)大林組
・(株)飯田産業	・三井不動産レジデンシャル(株)	・積水ハウス(株)
・大和ハウス工業(株)		
製造業		
・(株)バンダイ	・(株)東芝	・(株)リコー
・TOTO(株)	・アサヒビール(株)	・ソニー(株)
・パナソニック(株)	・大正製薬(株)	・大日本印刷(株)
・凸版印刷(株)	・日本無線(株)	
商事・卸・小売業		
・(株)セガゲームス	・(株)ニトリホールディングス	・(株)良品計画
・キヤノンマーケティングジャパン(株)	・リコージャパン(株)	
金融業・保険業		
・(株)三井住友銀行	・(株)みずほフィナンシャルグループ	・(株)りそなホールディングス
・(株)大和証券グループ本社	・(株)日本政策金融公庫	・SMB C日興証券(株)
・あいおいニッセイ同和損害保険(株)	・三菱UFJ信託銀行(株)	・損害保険ジャパン日本興亜(株)
・第一生命保険(株)	・明治安田生命保険(株)	・野村證券(株)
新聞・出版・放送・情報・通信業		
・(株)サイバーエージェント	・(株)TBSテレビ	・(株)集英社
・(株)小学館	・(株)大塚商会	・KDDI(株)
・LINE(株)	・楽天(株)	・静岡放送(株)
・日本アイ・ピー・エム(株)	・日本マイクロソフト(株)	・日本放送協会
運輸・旅行・広告・観光・サービス業		
・(株)ADKホールディングス	・(株)エイチ・アイ・エス	・(株)バンダイナムコエンターテインメント
・(株)マイナビ	・(株)リクルートホールディングス	・(株)丸井グループ
・(株)日立システムズ	・(株)博報堂プロダクツ	・(株)サニーサイドアップグループ
・ANAホールディングス	・アクセンチュア(株)	・東日本旅客鉄道(株)
・日本郵政グループ	・日本交通(株)	・鈴与(株)
教育・公務		
・国家公務員 一般職	・防衛省	海上自衛隊
・岐阜県庁	・福島県庁	・航空管制官
・千葉市役所		・公立大学法人横浜国立大学

情報コミュニケーション学部で取得できる資格

教員免許状

情報コミュニケーション学部では、指定された科目を
修得すれば、次の教員免許状を取得することができます。

中学校教諭一種免許状	社会、外国語(英語)
高等学校教諭一種免許状	公民、外国語(英語)、情報

教員免許状を取得するためには、
次のような科目群の単位修得が必要です。

- 学士(情報コミュニケーション学)の取得に必要な単位(つまり学部を卒業できる条件を満たすこと)
- 免許状に応じた指定科目
- 「教職に関する科目」

※詳しくは『資格課程案内』をご覧ください

学芸員、社会教育主事、司書、司書教諭

指定科目の修得により卒業と同時に取得できます。

CCNA (シスコ技術者認定資格)

CCNA (Cisco Certified Network Associate) とは、
ネットワーク関連製品の最大手であるシスコシステムズ社が認定する資格で、中小規模のネットワークの構築・運営・管理が可能な能力を身につけていることを証明するものです。CCNA資格の取得のための授業としては「ネットワーク技術Ⅰ～Ⅳ」が用意されています。動画や音声を活用したWeb教材が用意されていて自分のペースで学習を進めることができるようになっていきますし、授業ではネットワーク機器を使って実際にネットワークを構築し実際的な問題に対処するなどの実践的な実習も取り入れられています。



社会調査士

この資格は社会調査をすることのできる知識と技能を有していることを証明する資格です。社会調査には、マーケティング調査、コミュニティ・企業・学校などにおける意識調査などさまざまなものがありますが、社会科学的手法にしたがい多様な社会現象を理解し、諸現象の因果関係などを明確に提示するのに有効な手段です。社会調査協会に認定された科目(全部で7種類、うち一部選択)を修得して卒業すると、試験を受けることなく社会調査士の資格を得る条件を満たします。

情報コミュニケーション学部生の1日

ひとり暮らしの場合



多忙な毎日でも
オンとオフを上手に切り替え
自由に楽しく過ごしています

3年
横田 梨々香
北海道札幌市立
札幌清田高等学校卒業

ひとり暮らしを選んだ理由と、実際の感想を教えてください。

生活面で親から自立することが成長につながると考え、ひとり暮らしをしなければならない環境に身を置くことを決意。家に帰ってきて誰もいない寂しさがある分、帰省した時には家族のあたたかさをより一層感じます。時間の使い方は自分次第なので自由な日々を過ごせますが、朝寝坊をしてしまうなど自己管理ができなかった時には、自分の行動に責任が伴うことを実感させられます。

普段はどのような大学生活を過ごしていますか？

週に4日大学へ行き、休みの日にはアルバイトをしたり友達と出かけたりしています。長期休暇には海外旅行に行くことも。生まれ育った環境が全く異なる人々との交流は、新しい価値観を得ることができて刺激的です。忙しくてもしっかりと休む日をつくることを意識しているので、心と身体に余裕をもって生活することができています。

ある日のスケジュール

7:30 起床
朝食と身支度を済ませます

8:30 登校
満員電車に乗る必要なし！
自転車で通えます

9:00 1時限
「新興国事情」
東南アジアの国々と日本を比較します

10:40 空きコマ
授業の課題に取り組み時間。
一度帰宅し家事を済ませることも

13:30 3時限
「市民社会と法Ⅱ」
市民が社会生活を送る上で必要な民法を学びます

15:20 4時限
「経営学」
経営の仕組みを学び、組織や企業で働くことについて考えます

17:00 アパレル店舗でアルバイト
店舗運営にも携わっており、やりがいがあります

22:30 帰宅
バイトの仲間と夜ご飯を食べてから帰宅することが多いです

24:00 就寝
翌日のスケジュールを確認してから就寝



1カ月の生活費(収支)

収 入	
仕送り	130,000円
アルバイト	80,000円
合計	210,000円
支 出	
家賃	90,000円
食費	15,000円
光熱費	10,000円
交際費	35,000円
貯金	20,000円
衣類・趣味等	30,000円
その他	10,000円
合計	210,000円

自宅から通学の場合



長い通学時間を
有効活用！メリハリある
生活を送っています

2年
森下 兼佑
埼玉県
私立本庄東高等学校卒業

自宅から通うメリット・デメリットを教えてください。

電車の中では集中力が高まるので、読書や授業の課題に取り組む時間に。試験の時は通学中に要点の最終確認ができ、プラスに感じています。一方で、帰りが遅くなった日の翌日の1時限目はつらく感じることも。早起きには慣れましたが、睡眠時間はしっかり確保したいです。

普段はどのような大学生活を過ごしていますか？

早寝早起きが基本。そのために、電車内でできる課題などは通学時間に終わらせるようにしています。家でのんびりする時間も大切にしており、1週間のうち必ず1日は予定を入れないオフの日。時間を有効活用してメリハリのある生活を心がけています。

ある日のスケジュール

5:30 起床
朝ごはんは毎朝しっかり食べます

6:30 登校
音楽を聴きながら読書で
通学時間も充実！

10:50 2時限
「ネットワーク技術」
集中してパソコンスキルアップ！

12:30 昼食
毎週木曜日は大盛りケバブ丼

13:30 3時限
「統計学」
データの最適な使い方を学びます

15:10 友達と遊びに
ウィンドウショッピングや
ゲームをして楽しんでいます

18:00 帰宅の電車へ
最寄駅までの約2時間は読書
や課題の時間に充てています

24:00 帰宅
地元の友達と夜ご飯を食べてから帰宅することが多いです



1カ月の生活費(収支)

収 入	
仕送り	0円
アルバイト	60,000円
合計	60,000円
支 出	
食費	15,000円
交際費	25,000円
衣類・趣味等	15,000円
貯金	5,000円
合計	60,000円

各分野で活躍している卒業生たち

放送局



日本テレビ放送網株式会社 勤務
伊藤 遼さん
埼玉県立春日部高等学校卒業
2017年4月、日本テレビ放送網株式会社に入社。
編成局アナウンス部所属

多角的な学びが教えてくれた“何事にも先入観をもたない姿勢”

朝の情報番組でニュースコーナーを担当しています。取材現場から生中継を行うこともあり、現場でしか手に入らない情報を伝えることにやりがいを感じる日々。先輩方が築き上げた視聴者との信頼関係を絶やすことなく、さらに強められるように奮闘しています。

情コミの魅力は、行動経済学や法律、歴史などさまざまなジャンルを、コミュニケーションを通して学べること。学生同士で意見を交わし、問題解決の糸口を探ります。異なる価値観との出会いに溢れた授業

は、興味の幅をぐっと広げてくれました。また、多角的な学びは“何事にも先入観をもたないことの大切さ”にも気づかせてくれました。その姿勢は幅広い情報を扱い、新しい知識にふれる機会が多いアナウンサーの仕事にいかされていると実感します。

情コミは将来の目標が明確になる場所です。私自身、マスコミやメディアについての学びを深める中で小さい頃からの夢であったアナウンサーが、将来の目標に変わりました。みなさんも情コミで本当になりたい自分を見つけられることを願っています。

広告



株式会社博報堂 勤務
本屋敷 佳那さん
東京都私立明治大学付属中野八王子高等学校卒業
2012年7月、ロンドン大学大学院修了
2013年4月、株式会社博報堂に入社。
第十営業局に所属

何でも学んだ大学時代があるから、国境を越えて活躍できる

広告代理店でクライアントと交渉して広告制作を推進する制作営業を担当しています。メディアを土地にたとえるなら、制作営業とは「その土地にどんな家を建てるか」を考える仕事。入社後は、日本を代表する企業のグローバル案件や外資企業のマーケティングなどに携わってきました。現在は、世界的に支持される日本企業のブランディングを担当しています。クライアントの売上に直結こそしませんが、企業の新たな価値を生み出す領域に貢献できるのがこの仕事の醍醐味です。今後はよりグローバルに活躍するために海外拠点で経験を積みたいですね。

幼少期をイギリスで過ごした経験から、異文化コミュニケーションに関心が芽生えました。そんな私にとって情コミは最適な学びの場。さまざまな文化の背景や価値観、社会の仕組みを知ることができました。自分の興味を越えて学際的に研究できるのがこの学部の圧倒的な強みだと思います。統計学やプログラミングの基礎知識は今も役に立っています。情コミでの多様な学びは、いわば「知のビュッフェ」。でも、学問や知識に食べ過ぎはありません。社会での活躍の幅を広げるためにも、食わず嫌いをせず大いに学んでください！

運輸



全日本空輸株式会社 勤務
並木 千尋さん
東京都立立川高等学校卒業
2010年4月、全日本空輸株式会社に入社。
客室センター客室訓練部所属

自分にはない考えを前向きに捉えるマインドが養われました

国内線・国際線に乗務するとともに、客室乗務員のサービス訓練を行うインストラクターを担当しています。訓練生への指導を通じて、「お客さまのために何ができるのか」について考える力を醸成できるように訓練を行っています。お客さまへの対応に決まった答えがないというのがこの仕事の魅力です。さまざまな背景をもったお客さまにご満足いただけるよう、仲間と話し合って私自身も成長を続けています。また、訓練生の成長した姿を見てやりがいを感じています。

情コミでは、映画や音楽、ニュースなどを題材に学生同士で忌憚なく意見を出し合い、自分にはない

考えをたくさん聞けました。授業では、人の意見を真っ向から否定せずに受け止めて考える空気があり、私も物の見方が変わりました。4年間の学びで多様性を認められるようになったことが、現在の仕事にいきています。人と自分の意見が違うのは当たり前。そう考えてほかの仲間の言葉を積極的に聞き、ひとりでは実現しえないフライトや訓練を目指しています。自分の目の前に壁があると感じたときでも、多角的にその壁を見てみると、側面は意外と薄いのかも知れません。苦しいときこそ目線を変えて、受験勉強を乗り切ってくださいね。

メーカー



富士通株式会社 勤務
小池 祥嗣さん
群馬県立高崎高等学校卒業
2015年4月、富士通株式会社に入社。
流通ビジネス本部、運輸統括営業部、第三営業部所属

仕事に必要不可欠な“情報をどう扱うか”を学べた4年間

ショッピングセンターなどの店舗に、レジなどの機械を納入したり、売上管理の仕組みをご提供するなど、流通のサポートを行っています。お客さまの要望を具体化し、折衝を重ねて課題をクリアすることで、実際にサービスとして利用できるものを作り上げていきます。業務においてさまざまな人と関わる中で、交渉スキルが必要な場面に何度も遭遇します。その際に最も重要なのが言葉や態度を使い分ける「演出力」。営業職にとって、情報の取捨選択・活用能力は何よりも大事だと思います。

さまざまな情報が氾濫している現代社会において、正しい情報を選び取る力は欠かせません。その重要さに気づくきっかけを得られたのが、情報コミュニケーション学部での日々の学習でした。情報を活用する能力は、日々の仕事を進めるにあたっての大前提となっており、ここで得られた人間力や適応力は何物にも代えがたい財産です。

大学は社会に出るための準備期間。情報コミュニケーション学部で、社会人として必要なマインドを学び、目まぐるしく変化する世界を生き抜くための力を身につけることをおすすめします。

金融



株式会社横浜銀行 勤務
石川 智子さん
神奈川県立鎌倉女学院高等学校卒業
2014年4月、株式会社横浜銀行に入行。
個人渉外部署所属

幅広い学びで視野が広がり、自分の新たな可能性に気づきました

個人のお客様に公共債、外貨預金、投資信託、保険商品など資産運用の案内をしています。お客様に「この銀行を選んでよかったわ。」「あなたにお願いしてよかった。」とっていただけることにやりがいを感じています。当行の商品やサービスへの信頼が差になるからこそ、働いている人が重要。お客様のニーズに合わせた案内ができるよう、日々勉強しています。お客様とのコミュニケーションをとる上で、情コミで学んだ多様な分野の知識が役に立っています。1つの分野に偏らず多種多様なカテゴリーを勉強したからこそ、

お客様に合わせた会話ができ、信頼関係を築いていくことができています。

「まだ学びたいことが決まってない。」「将来、何をしたいか決められない。」そう考えている方はぜひ情コミを受験してください。この学部では幅広い分野を学ぶことで視野が広がり、自分が本当に学びたいことは何か、時間をかけて見つけることができます。私も4年間の学びで視野が広がったことで、将来の目標が大きく変わりました。情コミに入って自分の道をどんどん広げましょう！

教員



千葉県船橋市立公立中学校 勤務
古賀 礼佳さん
東京都私立昭和女子大学附属昭和高等学校卒業
2017年4月、船橋市立公立中学校に入職。
教諭として勤務

異国の地で教壇に立った経験が、私の人生を大きく変えてくれました

中学校で2年生の担任をしながら、学校行事の運営などにも携わっています。生徒たちとの日常は、予想しない出来事の連続。うまくいかないこともあります。生徒とともに自分自身も成長できる充実した日々を過ごしています。

入学当初明確な進路が定まっていなかった私の人生を大きく変えたのは、学部のプログラムによるベトナムへの短期留学です。留学先の学校で、漢字を教える機会がありました。教壇に立つという初めての挑戦にとともに緊張しましたが、学生たちは積極的に参加してくれ、心から楽しんで授業をすることができ、素晴らしい時間になりました。この時に感じた、やりがいや楽しさ

が後押しとなり、教職を目指すことを決意しました。発展途上国の教育への関心から挑戦した留学が、人生の大きな岐路になり、何事にもチャレンジをしてみる大切さを実感しました。今では生徒たちに、やろうか迷うことがあった時はまず実践してみるよう指導しています。

多彩な授業やプログラムから将来目指すべき進路を探せることが情コミの魅力ですが、見つけた夢を実現することができたのは、教職員の方々のご指導のおかげです。親身になって相談に乗ってくださる姿勢に、この学部に入社して本当によかったと心から感じました。みなさんも興味があることに積極的に挑戦し、自らの未来を切り拓いてください。

ジェンダーセンターの活動

2004年に開設された情報コミュニケーション学部は、明治大学的女子教育を担ってきた戦前の専門部女子部、戦後の短期大学の伝統を引き継いで、当初よりジェンダー研究の推進を、学部の理念のひとつとして掲げてきました。社会的、文化的に形成された性をめぐるイメージや役割である「ジェンダー」の問題を中心に、さらに多様な生き方を実現する社会の理想としての「ダイバーシティ」と、私たちの「私らしさ」を築き上げるために重要な要素である「社会的承認」を手がかりに、公正な社会実現のための双方向コミュニケーションのあり方を追求することは、情報コミュニケーション学の重要な課題のひとつです。2010年4月にジェンダーセンターが設置されて以降、国内外と連携してシンポジウム・特別講演会・学生向けイベント等を実施しています。

- ジェンダーセンターの活動例
- 国際シンポジウム

ジェンダーセンター開設10周年記念シンポジウム「21世紀の多様性と創造性」
- 定例研究会

海外研究者から見た日本の少女文化とジェンダー研究
- 上映会

映画『his』プレミア試写上映会・トークセッション

入試情報

学部別入学試験

学科(募集人数)	出願期間	入学試験日	合格発表日時	入学手続締切日
392名	1月6日(水)～1月22日(金) ※ 締切日消印有効	2月8日(月)	2月15日(月) 10:30	3月2日(火) ※ 締切日消印有効

入学試験時間割・配点			試験科目
1時限	2時限	3時限	
10:00～11:00 (60分)	12:00～13:00 (60分)	14:20～15:20 (60分)	外国語 …………… 英語(コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・コミュニケーション英語Ⅲ・英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ) 国語 …………… 国語総合(漢文を除く) 地理歴史・公民・………… 世界史B、日本史B、政治・経済、数学(数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B「数列・ベクトル」)から1科目選択
外国語(配点100点)	国語(配点100点)	地理歴史・公民、数学(配点100点)	

全学部統一入学試験

学科(募集人数)	出願期間	入学試験日	合格発表日時	入学手続締切日	試験会場
25名	1月6日(水)～1月18日(月) ※ 締切日消印有効	2月5日(金)	2月15日(月) 10:30	3月2日(火) ※ 締切日消印有効	東京(本学キャンパス)、 神奈川(本学キャンパス)、 札幌、仙台、名古屋、大阪、 広島、北九州

利用する「全学部統一入学試験」の教科・科目・配点等			
教科	時限	科目	配点
外国語	1時限 9:30～10:30 (60分)	英語(コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・コミュニケーション英語Ⅲ・英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ)、ドイツ語、フランス語から1科目選択	150点 ※
●下記の5教科9科目のうちから2科目を選択し、受験する。3科目を受験した場合には、高得点の科目を利用する。			
国語	2時限 11:30～12:30 (60分)	国語総合(漢文を除く)	200点(100点×2)
地理歴史・公民・理科	3時限 13:50～14:50 (60分)	世界史B、日本史B、地理B、政治・経済、物理(物理基礎・物理)、化学(化学基礎・化学)、生物(生物基礎・生物)から1科目選択	
数学	4時限 15:50～16:50 (60分)	数学(数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B「数列・ベクトル」)	
合計(3科目)			350点

※「外国語」は他学部と同一問題[60分(100点満点)]を使用し、配点を150点満点に換算する。

大学入学共通テスト利用入学試験(3科目方式)

入学試験日は、「令和3年度大学入学共通テスト受験案内」を参照してください。

学科(募集人数)	出願期間	試験日	合格発表日時	入学手続締切日
30名	1月6日(水)～1月15日(金) ※ 締切日消印有効	1月16日(土)・1月17日(日)	2月15日(月) 10:30	3月2日(火) ※ 締切日消印有効

利用する「大学入試センター試験」の教科・科目・配点等		
教科	科目	配点
外国語	『英語』、『ドイツ語』、『フランス語』、『中国語』、『韓国語』から1科目 『英語』は、「リーディングの配点100点を200点に換算した点数」、または、「リーディングの配点100点を160点に換算し、リスニングの配点100点を40点に換算し、リーディングとリスニングの換算合計点数」のいずれか高得点の成績を合否判定に利用する。	200点
●下記の2教科3科目のうちから1科目を選択。2科目以上を受験した場合には、高得点の科目の成績を合否判定に利用する。		
国語	『国語』	200点
数学	『数学Ⅰ・数学A』、『数学Ⅱ・数学B』 大学入学共通テストの配点100点を200点に換算する。	
●下記の3教科14科目のうちから1科目を選択。(注)2科目以上を受験した場合には、高得点の科目の成績を合否判定に利用する。		
地理歴史・公民	「世界史B」、「日本史B」、「地理B」、「現代社会」、「倫理」、「政治・経済」 「地理歴史」、「公民」をあわせて2科目を受験した場合には、第1解答科目の成績を合否判定利用の対象とする。 第2解答科目の成績は合否判定に利用しない。	200点
理科	「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」、「地学基礎」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」 (注)【理科①】を利用する場合は、【理科①】のうちから2科目を選択し、この2科目をもって1科目とみなす。【理科②】において2科目を受験した場合には、第1解答科目の成績を合否判定利用の対象とする。第2解答科目の成績は合否判定に利用しない。	
合計(3科目)		600点

※【理科①】…「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」、「地学基礎」を指します。※【理科②】…「物理」、「化学」、「生物」、「地学」を指します。

大学入学共通テスト利用入学試験(6科目方式)

入学試験日は、「令和3年度大学入学共通テスト受験案内」を参照してください。

学科(募集人数)	出願期間	試験日	合格発表日時	入学手続締切日
10名	1月6日(水)～1月15日(金) ※ 締切日消印有効	1月16日(土)・1月17日(日)	2月15日(月) 10:30	3月2日(火) ※ 締切日消印有効

利用する「大学入試センター試験」の教科・科目・配点等		
教科	科目	配点
国語	『国語』	200点
外国語	『英語』、『ドイツ語』、『フランス語』、『中国語』、『韓国語』から1科目 『英語』は、「リーディングの配点100点を200点に換算した点数」、または、「リーディングの配点100点を160点に換算し、リスニングの配点100点を40点に換算し、リーディングとリスニングの換算合計点数」のいずれか高得点の成績を合否判定に利用する。	200点
数学	『数学Ⅰ・数学A』	100点
	『数学Ⅱ・数学B』、『簿記・会計』、『情報関係基礎』から1科目 『簿記・会計』、『情報関係基礎』は、高等学校において、これらの科目を履修した者および文部科学大臣の指定を受けた専修学校の高等課程を修了した者(見込者を含む)に限る。	100点
●下記の3教科14科目のうちから2科目を選択。(注)3科目以上を受験した場合には、高得点の2科目の成績を合否判定に利用する。 同一教科内について、2科目の使用可。『地理歴史』、『公民』および『理科』は、第1解答科目・第2解答科目にかかわらず合否判定対象とする。		
地理歴史	「世界史B」、「日本史B」、「地理B」	200点 (100点×2)
公民	「現代社会」、「倫理」、「政治・経済」	
理科	「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」、「地学基礎」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」 (注)【理科①】を利用する場合は、【理科①】のうちから2科目を選択し、この2科目をもって1科目とみなす。	
合計(6科目)		800点

※【理科①】…「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」、「地学基礎」を指します。 ※【理科②】…「物理」、「化学」、「生物」、「地学」を指します。

特別入学試験

● 付属校推薦入試(55名)	● スポーツ特別入試(8名)	● 外国人留学生入試(若干名)	詳細は、情報コミュニケーション学部事務室 (TEL.03-3296-4262～4)までお問い合わせください。
----------------	----------------	-----------------	---

イベント情報

オープンキャンパス

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点より、2020年度は中止します。現在、代替イベント等を検討中です。詳細が決まり次第、大学HPでお知らせします。

<https://www.meiji.ac.jp/>

進学相談会

明治大学は、全国各地で開催される進学（受験）相談会に参加しています。くわしくは、下記ホームページをご覧ください。

<https://www.meiji.ac.jp/exam/event/shingaku/>

キャンパス見学

キャンパス見学は自由にできます。事前の申し込みは必要ありません。ただし、年末年始、入試実施に伴う入構制限期間中および、そのほかの本学が定める日等は、見学ができない場合があります。また、団体での見学をご希望の場合は、下記ホームページをご覧ください。

https://www.meidai-support.com/campus_tour/

情報コミュニケーション学部

<https://www.meiji.ac.jp/infocom/>



情報コミュニケーション学部事務室 (1・2年次:和泉キャンパス)

〒168-8555 東京都杉並区永福1-9-1 TEL.03-5300-1627~9
京王線・京王井の頭線、地下鉄都営新宿線(京王新線直通)／
明大前駅下車徒歩5分

※京王線●新宿から特急1駅(約6分)、準特急・急行・区間急行・快速で2駅(約7分)、各駅停車3駅(約10分)※都営新宿線(京王新線直通)●快速(橋本行)新宿→笹塚→明大前(新宿から4駅、約10分)／各駅停車(笹塚行)新宿→笹塚(京王線乗り換え)→明大前(新宿から約12分)※京王井の頭線●渋谷から急行2駅(約7分)、各駅停車7駅(約12分)／吉祥寺から急行3駅(約13分)、各駅停車9駅(約17分)



情報コミュニケーション学部事務室 (3・4年次:駿河台キャンパス)

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1 TEL.03-3296-4262~4
JR中央線・総武線、地下鉄東京メトロ丸ノ内線／御茶ノ水駅下車徒歩3分
地下鉄東京メトロ千代田線／新御茶ノ水駅下車徒歩5分
地下鉄都営三田線・新宿線・東京メトロ半蔵門線／神保町駅下車徒歩5分

